

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

基礎資料（薬学教育評価用）

(2021年5月1日現在)

九州保健福祉大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

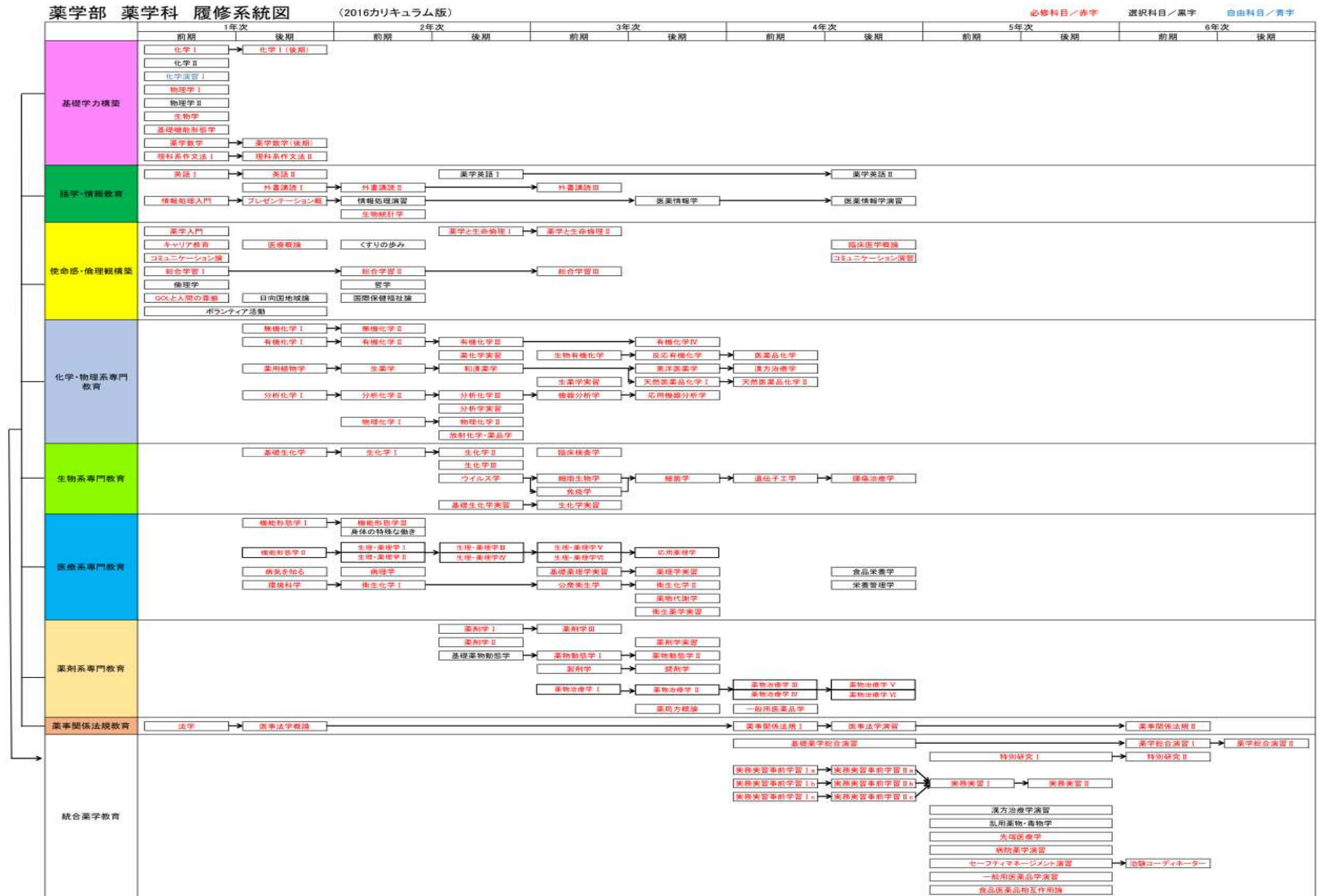
(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目	3	2-21
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	22-25
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	26
基礎資料 5	教員・職員の数	5	27
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	28
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	29-34
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	35
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	36-64
基礎資料 10	学生の健康管理	6	65
基礎資料 11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	66-67
基礎資料 12	学生閲覧室等の規模	7	68
基礎資料 13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	69

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

(基礎資料1) カリキュラム・ツリー

[注] 資質・能力を卒業時に身につけるための、体系的と科目の順次性(学年・学期進行による学習順序)がわかるような図を示してください。



[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学入門	薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学入門	薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	薬学入門	薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門	薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門	薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門	薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	薬学入門	薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	コミュニケーション論		薬学と生命倫理Ⅱ			
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	コミュニケーション論		薬学と生命倫理Ⅱ			
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	コミュニケーション論		薬学と生命倫理Ⅱ			
4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。			薬学と生命倫理Ⅱ			
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。		物理化学Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。			薬学と生命倫理Ⅱ			
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。			薬学と生命倫理Ⅱ			
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)			薬学と生命倫理Ⅱ			
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			セーフティマネージメント演習
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			セーフティマネージメント演習
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			セーフティマネージメント演習
4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			セーフティマネージメント演習
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			セーフティマネージメント演習
6) 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			セーフティマネージメント演習
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学入門					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学入門					
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学入門					
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学入門					
(2) 薬剤師に求められる倫理観						
【①生命倫理】						
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
2) 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
【②医療倫理】						
1) 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			治験コーディネーター論
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			
【③患者の権利】						
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			治験コーディネーター論
2) 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			治験コーディネーター論
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			治験コーディネーター論
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)		薬学と生命倫理Ⅰ	薬学と生命倫理Ⅱ			治験コーディネーター論
【④研究倫理】						
1) 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。		薬学と生命倫理Ⅰ				治験コーディネーター論
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。		薬学と生命倫理Ⅰ				治験コーディネーター論
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規を遵守して研究に取り組む。(態度)		薬学と生命倫理Ⅰ				
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	コミュニケーション論			コミュニケーション演習		
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	コミュニケーション論			コミュニケーション演習		
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。				コミュニケーション演習		
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。				コミュニケーション演習		
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)				コミュニケーション演習	一般用医薬品学演習	
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)				コミュニケーション演習	一般用医薬品学演習	
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)				コミュニケーション演習	一般用医薬品学演習	
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)				コミュニケーション演習	一般用医薬品学演習	
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)				コミュニケーション演習	一般用医薬品学演習	
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	薬学入門					
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)	薬学入門					
(4) 多職種連携協働とチーム医療						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	薬学入門					
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	薬学入門					
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	薬学入門					
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	薬学入門					
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	薬学入門					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)			医薬情報学	実務実習事前学習Ⅱa、医薬情報学演習		
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)			医薬情報学	医薬情報学演習	食品医薬品相互作用論卒業研究	
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	情報処理入門/プレゼンテーション概論		医薬情報学	医薬情報学演習	食品医薬品相互作用論卒業研究	
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	情報処理入門/プレゼンテーション概論		医薬情報学	医薬情報学演習	食品医薬品相互作用論卒業研究	
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	情報処理入門		医薬情報学	医薬情報学演習	食品医薬品相互作用論卒業研究	
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学入門					
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学入門					
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学入門					
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	薬学入門					
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)	薬学入門					
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)	薬学入門					
B 薬学と社会						
(1) 人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
4) 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
7) 個人情報の取扱いについて概説できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。			薬局方概論	薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。			薬局方概論	薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		治験コーディネーター論
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。			薬局方概論	薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		治験コーディネーター論
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。			薬局方概論	薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。			薬局方概論	薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。			薬局方概論	薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。			薬局方概論	薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
10) 健康被害救済制度について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。			薬局方概論	薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		治験コーディネーター論
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
(3) 社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
2) 医療保険制度について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
3) 療養担当規則について説明できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
4) 公費負担医療制度について概説できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
5) 介護保険制度について概説できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
6) 薬価基準制度について概説できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。				薬事関係法規Ⅰ、医事法学演習		
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。				基礎薬学総合演習		
2) 国民医療費の動向について概説できる。				基礎薬学総合演習		
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。			薬局方概論薬剤学実習			
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。						薬学総合演習
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa.b		
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa.b		
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa.b		
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。				一般用医薬品学、実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa	一般用医薬品学演習	
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa		
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa.b		
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】						
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa		
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa.b		
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa		
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa		
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅰa		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C 薬学基礎						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【①化学結合】						
1) 化学結合の様式について説明できる。	化学I、無機化学I		反応有機化学			
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	無機化学I		反応有機化学			
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	無機化学I	無機化学II	反応有機化学			
【②分子間相互作用】						
1) ファンデルワールス力について説明できる。	化学I、無機化学I	物理化学I	反応有機化学	医薬品化学		
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	無機化学I	物理化学I	反応有機化学	医薬品化学		
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	無機化学I	物理化学I	反応有機化学	医薬品化学		
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	無機化学I	物理化学I	反応有機化学	医薬品化学		
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	化学I、無機化学I	物理化学I	反応有機化学	医薬品化学		
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	無機化学I	物理化学I	反応有機化学	医薬品化学		
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	無機化学I	物理化学I	反応有機化学	医薬品化学		
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。			応用機器分析学			
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。			応用機器分析学			
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。			応用機器分析学			
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。			応用機器分析学			
5) 光の散乱および干渉について説明できる。			応用機器分析学			
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。			応用機器分析学			
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射線について説明できる。	物理学II (選)	放射化学・薬品学				
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。		放射化学・薬品学				
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		放射化学・薬品学				
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		放射化学・薬品学				
5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。		放射化学・薬品学				
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状態と巨視的状態】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		物理化学I、物理化学II (選)				
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。		物理化学I、物理化学II (選)				
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。		物理化学I				
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。		物理化学I				
2) 熱力学第一法則を説明できる。		物理化学I				
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。		物理化学I				
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。		物理化学I				
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。		物理化学I				
6) エンタルピーについて説明できる。		物理化学I				
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。		物理化学I				
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。		物理化学I				
2) 熱力学第二法則について説明できる。		物理化学I				
3) 熱力学第三法則について説明できる。		物理化学I				
4) ギブズエネルギーについて説明できる。		物理化学I				
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。		物理化学I				
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学I				
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。		物理化学I				
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		物理化学I				
4) 共役反応の原理について説明できる。		物理化学I				
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理化学I、物理化学II (選)				
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理化学I、物理化学II (選)				
3) 状態図について説明できる。		物理化学I、物理化学II (選)				
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		薬剤学II				
2) 活量と活量係数について説明できる。		薬剤学II				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		薬剤学II				
4) イオン強度について説明できる。		薬剤学II				
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		物理化学I、物理化学II (選)				
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。		物理化学I、物理化学II (選)				
(3) 物質の変化						
【①反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学I				
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学I				
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学I				
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学I				
5) 代表的な複合反応 (可逆反応、平行反応、連続反応など) の特徴について説明できる。		物理化学I				
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。		物理化学I				
7) 代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応、酵素反応など) について説明できる。		物理化学I				
C2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	分析化学I	分析学実習				
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	分析化学I	分析学実習				
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学I					
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	分析化学I					
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	分析化学I	分析学実習				
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	分析化学I	分析学実習				
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	分析化学I					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学 I					
2) 沈殿平衡について説明できる。	分析化学 I					
3) 酸化還元平衡について説明できる。	分析化学 I					
4) 分配平衡について説明できる。	分析化学 I					
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		分析化学 II				
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学 II				
【②定量分析 (容量分析・重量分析)】						
1) 中和滴定 (非水滴定を含む) の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 II				
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 II				
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 II				
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 II				
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)		分析化学 II、分析学実習				
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学 II				
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		分析化学 II				
(4) 機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 III				
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 III				
3) 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 III、薬化学実習				
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学 III				
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		分析化学 III				
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		分析化学 III、分析学実習				
【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。				応用機器分析学		
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。				応用機器分析学		
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。					天然医薬品化学 II	
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。					天然医薬品化学 II	
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。				応用機器分析学		
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。				応用機器分析学		
(5) 分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		分析化学 III				
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学 III、薬化学実習				
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学 III				
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学 III				
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)		分析化学 III、分析学実習				
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。				機器分析学		
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。				機器分析学		
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。				機器分析学		
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。				機器分析学		
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。				機器分析学		
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。				機器分析学		
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。				機器分析学		
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。				機器分析学		
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	有機化学 I					
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	有機化学 I					
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	有機化学 I、無機化学 I					
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	無機化学 I					
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。		無機化学 II				
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。		有機化学 II、有機化学 III		有機化学 IV、反応有機化学		
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。		有機化学 II、有機化学 III		有機化学 IV、反応有機化学		
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。		有機化学 II				
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)		有機化学 II、有機化学 III		有機化学 IV、反応有機化学		
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機化学 I	有機化学 II		生物有機化学		
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機化学 I			生物有機化学		
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	有機化学 I			生物有機化学		
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化学 I			生物有機化学		
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識・技能)	有機化学 I			生物有機化学		
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	有機化学 I					
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	有機化学 I			生物有機化学		
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機化学 I					
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機化学 I	有機化学 II				
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	有機化学 I					
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機化学 I					
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	有機化学 I					
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学 I					
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 II		有機化学 IV		
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 II		有機化学 IV		
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 II		有機化学 IV		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③芳香族化合物】						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。			有機化学Ⅲ			
2) 芳香族性の概念を説明できる。	無機化学Ⅰ		有機化学Ⅲ			
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。			有機化学Ⅲ			
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。			有機化学Ⅲ			
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。			有機化学Ⅲ			
(3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。			無機化学Ⅱ、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ	反応有機化学		
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)			薬化学実習			
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ	医薬品化学	
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。			有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ	医薬品化学	
3) 脱離反応の特徴について説明できる。			有機化学Ⅱ	有機化学Ⅳ	医薬品化学	
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅱ	生物有機化学		
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅲ	反応有機化学		
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅲ	反応有機化学		
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅲ	反応有機化学		
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			有機化学Ⅲ	反応有機化学		
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。			無機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ	有機化学Ⅳ		
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。			無機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ			
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。			無機化学Ⅱ	生物有機化学	医薬品化学	
2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。			無機化学Ⅱ		医薬品化学	
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。				応用機器分析学		
2) 有機化合物中の代表的なプロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。				応用機器分析学		
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。				応用機器分析学		
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。				応用機器分析学		
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)				応用機器分析学	天然医薬品化学Ⅱ	
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。				応用機器分析学		
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)				薬化学実習	応用機器分析学	天然医薬品化学Ⅱ
【③質量分析】						
1) マスペクトルより得られる情報を概説できる。				応用機器分析学		
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)				応用機器分析学	天然医薬品化学Ⅱ	
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。				応用機器分析学		
4) 代表的な化合物のマスペクトルを解析できる。(技能)				応用機器分析学	天然医薬品化学Ⅱ	
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)				応用機器分析学	天然医薬品化学Ⅱ	
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。			無機化学Ⅱ			
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。			無機化学Ⅱ			
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。			無機化学Ⅱ			
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。			無機化学Ⅱ			
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。			無機化学Ⅱ		医薬品化学	
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。				生物有機化学	医薬品化学	
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
(2) 生体反応の化学による理解						
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】						
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
【②酵素阻害剤と作用様式】						
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】						
1) 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
【④生体内で起こる有機反応】						
1) 代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
2) 異物代謝の反応(発がん性物質の代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。				生物有機化学	医薬品化学	
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用						
【①医薬品と生体分子の相互作用】						
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など)から説明できる。					医薬品化学	
【②医薬品の化学構造に基づく性質】						
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性など)を説明できる。					医薬品化学	
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。					医薬品化学	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。				医薬品化学		
2) バイオアイソスター (生物学的等価体) について、代表的な例を挙げて概説できる。				医薬品化学		
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。				医薬品化学		
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
4) キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
5) β -ラクタム構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
6) ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアミン骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
2) アセチルコリンアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
3) ステロイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
5) オピオイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学		
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品 (アルキル化剤、シスプラチン類) を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				医薬品化学		
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品化学		
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品化学		
【⑦イオンチャンネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャンネルに作用する医薬品の代表的な基本構造 (ジヒドロピリジンなど) の特徴を説明できる。				医薬品化学		
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。	薬用植物学			生薬学実習		
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	薬用植物学	和漢薬学		生薬学実習		
3) 植物の主な内部形態について説明できる。	薬用植物学			生薬学実習		
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物 (ケシ、アサ) の特徴を説明できる。	薬用植物学			生薬学実習		
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、藻類、菌類由来) を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		生薬学		生薬学実習		
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来) の薬効、成分、用途などを説明できる。		生薬学		生薬学実習		
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学		生薬学実習		
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学		生薬学実習		
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		生薬学		生薬学実習		
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		和漢薬学		生薬学実習		
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学		生薬学実習		
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		生薬学		生薬学実習		
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。				天然医薬品化学 I	天然医薬品化学 II	
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。				生薬学実習、天然医薬品化学 I		
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。				生薬学実習、天然医薬品化学 I		
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。				生薬学実習、天然医薬品化学 I		
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。				生薬学実習、天然医薬品化学 I		
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。				天然医薬品化学 I	天然医薬品化学 II	
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。				天然医薬品化学 I	天然医薬品化学 II	
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)				生薬学実習	天然医薬品化学 II	
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。				天然医薬品化学 I	天然医薬品化学 II	
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。				天然医薬品化学 I	天然医薬品化学 II	
3) 農薬や香料などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。				天然医薬品化学 I	天然医薬品化学 II	
C6 生命現象の基礎						
(1) 細胞の構造と機能						
【①細胞膜】						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生物学、基礎生化学					
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生物学、基礎生化学					
【②細胞小器官】						
1) 細胞小器官 (核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど) やリボソームの構造と機能を説明できる。	生物学、基礎生化学					
【③細胞骨格】						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生物学、基礎生化学					
(2) 生命現象を担う分子						
【①脂質】						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	基礎生化学					
【②糖質】						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	基礎生化学					
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	基礎生化学					
【③アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	基礎生化学					
【④タンパク質】						
1) タンパク質の構造 (一次、二次、三次、四次構造) と性質を説明できる。	基礎生化学					
【⑤ヌクレオチドと核酸】						
1) ヌクレオチドと核酸 (DNA、RNA) の種類、構造、性質を説明できる。	基礎生化学	生化学Ⅲ				
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。		生化学Ⅰ				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。		生化学 I		栄養管理学 (選)		
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		基礎生化学実習	生化学実習			
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	生物学、基礎生化学					
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。	生物学、基礎生化学					
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	生物学、基礎生化学					
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。			生化学 I			
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。			生化学 I			
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。			生化学 I			
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)			基礎生化学実習、生化学 I			
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。	生物学、基礎生化学					
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生化学 II				
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	生物学、基礎生化学		生化学 III			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	生物学、基礎生化学		生化学 III			
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	生物学、基礎生化学		生化学 III			
2) 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。	生物学、基礎生化学		生化学 III			
3) RNAの種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。	生物学、基礎生化学		生化学 III			
【③遺伝子の複製】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。			生化学 III			
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。	基礎生化学		生化学 III			
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。	基礎生化学		生化学 III			
3) 転写因子による転写制御について説明できる。	基礎生化学		生化学 III			
4) RNAのプロセッシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。	基礎生化学		生化学 III			
5) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	基礎生化学		生化学 III			
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNAの変異と修復について説明できる。			生化学 III			
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を概説できる。					遺伝子工学	
2) 遺伝子改変生物(遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。					遺伝子工学	
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
【①概論】						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。			生化学 II			
【②ATPの産生と糖質代謝】						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。			生化学 II		栄養管理学 (選)	
2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。			生化学 II		栄養管理学 (選)	
3) 電子伝達系(酸化的リン酸化)とATP合成酵素について説明できる。			生化学 II		栄養管理学 (選)	
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。			生化学 II		栄養管理学 (選)	
5) 糖新生について説明できる。			生化学 II		栄養管理学 (選)	
【③脂質代謝】						
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。			生化学 II		栄養管理学 (選)	
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。			生化学 II		栄養管理学 (選)	
【④飢餓状態と飽食状態】						
1) 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。			生化学 II		栄養管理学 (選)	
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。			生化学 II		栄養管理学 (選)	
【⑤その他の代謝系】						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。			生化学 II			
2) ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。			生化学 III			
3) ペントースリン酸回路について説明できる。			生化学 II			
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【①概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	生物学、基礎生化学		生化学 I			
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。			生化学 I			
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。			生化学 I			
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。			生化学 I			
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。			生化学 I			
5) 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。			生化学 I			
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生物学、基礎生化学					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生物学、基礎生化学					
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	生物学					
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	生物学					
【②細胞死】						
1) 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。	生物学					
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	生物学					
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。	生物学					
G7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	生物学					
2) 遺伝子多型について概説できる。	生物学					
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。	生物学					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。	生物学					
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	生物学					
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	基礎機能形態学			薬物治療学VI		
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	基礎機能形態学					
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)			基礎薬理学実習			
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)						
【④神経系】						
1) 中枢神経系について概説できる。	機能形態学I					
2) 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	機能形態学I					
【⑤骨格系・筋肉系】						
1) 骨、筋肉について概説できる。	機能形態学I					
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学I					
【⑥皮膚】						
1) 皮膚について概説できる。	機能形態学I					
【⑦循環器系】						
1) 心臓について概説できる。	機能形態学II	生理・薬理学II				
2) 血管系について概説できる。	機能形態学II	生理・薬理学II				
3) リンパ管系について概説できる。	基礎機能形態学					
【⑧呼吸器系】						
1) 肺、気管支について概説できる。	基礎機能形態学					
【⑨消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学II			薬物治療学VI		
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学II			薬物治療学VI		
【⑩泌尿器系】						
1) 泌尿器系について概説できる。	機能形態学II	生理・薬理学II				
【⑪生殖器系】						
1) 生殖器系について概説できる。	基礎機能形態学	機能形態学III				
【⑫内分泌系】						
1) 内分泌系について概説できる。	基礎機能形態学	機能形態学III		薬物治療学VI		
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	機能形態学I	機能形態学III				
【⑭血液・造血器系】						
1) 血液・造血器系について概説できる。	基礎機能形態学	機能形態学III				
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学I	生理・薬理学III				
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学I	生理・薬理学III、生化学I				
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学I	生理・薬理学II				
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態学I、II					
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	基礎機能形態学、機能形態学II	機能形態学III、生化学I、生理・薬理学II	生理・薬理学V	薬物治療学VI		
【③オータコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学II	生化学I、生理・薬理学II				
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。			免疫学			
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。	機能形態学II	生理・薬理学II				
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。		機能形態学III	生理・薬理学V			
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。	機能形態学II	生理・薬理学II				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	機能形態学II	生理・薬理学II				
【⑧体温の調節】						
1) 体温の調節機構について概説できる。	機能形態学I					
【⑨血液凝固・線溶系】						
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	基礎機能形態学	機能形態学III、生理・薬理学III				
【⑩性周期の調節】						
1) 性周期の調節機構について概説できる。	基礎機能形態学	機能形態学III	生理・薬理学V			
C8 生体防御と微生物						
(1) 身体をまもる						
【①生体防御反応】						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。			免疫学			
2) 免疫反応の特徴(自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容)を説明できる。			免疫学			
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。			免疫学			
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。			免疫学			
【②免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。			免疫学			
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。			免疫学			
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。			免疫学			
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。			免疫学			
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。			免疫学			
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性(遺伝子再構成)と活性化について説明できる。			免疫学			
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。			免疫学			
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。			免疫学			
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【①免疫応答の制御と破綻】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学			
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学			
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。			免疫学			
4) 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。			免疫学			
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫学			
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			免疫学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【② 免疫反応の利用】						
1) ワクチンの原理と種類(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど)について説明できる。				免疫学、公衆衛生学		先端医療学
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。				免疫学		先端医療学
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。				免疫学		
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法(ELISA法、ウエスタンブロット法など)を実施できる。(技能)				免疫学		
【③ 微生物の基本】						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。	生物学、基礎生化学	ウイルス学				
【② 細菌】						
1) 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。	生物学、基礎生化学			細菌学		
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。	生物学、基礎生化学			細菌学		
3) 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。				細菌学		
4) 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。				細菌学		
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。				細菌学		
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。				細菌学		
【③ ウィルス】						
1) ウィルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		ウイルス学				
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。		ウイルス学		細菌学		
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		ウイルス学		細菌学		
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		ウイルス学		生化学実習、薬局方概論		
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		ウイルス学		生化学実習、薬局方概論		
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)				生化学実習		
2) 無菌操作を実施できる。(技能)				生化学実習		
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)				生化学実習		
【④ 病原体としての微生物】						
【① 感染の成立と共生】						
1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		ウイルス学		細菌学		
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		ウイルス学		細菌学		
【② 代表的な病原体】						
1) DNA ウィルス(ヒトヘルペスウィルス、アデノウィルス、パピローマウィルス、B型肝炎ウィルスなど)について概説できる。		ウイルス学				
2) RNA ウィルス(ノロウィルス、ロタウィルス、ポリオウィルス、コクサッキーウィルス、エコーウィルス、ライノウィルス、A型肝炎ウィルス、C型肝炎ウィルス、インフルエンザウィルス、麻疹ウィルス、風疹ウィルス、日本脳炎ウィルス、狂犬病ウィルス、ムンプスウィルス、HIV、HTLVなど)について概説できる。		ウイルス学				
3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、デフィシル菌など)について概説できる。				細菌学		
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、エルシニア菌、クレブシエラ菌、コレラ菌、百日咳菌、肺炎ピロリ菌、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。				細菌学		
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。				細菌学		
6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。				細菌学		
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		ウイルス学		細菌学		
8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。		ウイルス学		細菌学		
9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。		ウイルス学		細菌学		
D 衛生薬学						
D1 健康						
(1) 社会・集団と健康						
【① 健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。				公衆衛生学		
【② 保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				公衆衛生学		
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。				公衆衛生学		
3) 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。				公衆衛生学		
【③ 疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				公衆衛生学		
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。				公衆衛生学		
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。				公衆衛生学		
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)				公衆衛生学		
(2) 疾病の予防						
【① 疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。				公衆衛生学		
2) 健康増進政策(健康日本21など)について概説できる。				公衆衛生学		
【② 感染症とその予防】						
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など)の特徴について説明できる。		ウイルス学		公衆衛生学		
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。				公衆衛生学		
3) 代表的な感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。		ウイルス学		公衆衛生学		
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。		ウイルス学		公衆衛生学		
【③ 生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。				公衆衛生学		
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。				公衆衛生学		
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)				公衆衛生学		
【④ 母子保健】						
1) 新生児マスキリングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。				公衆衛生学		
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。		ウイルス学		公衆衛生学		
【⑤ 労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。				公衆衛生学		
2) 労働衛生管理について説明できる。				公衆衛生学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 栄養と健康						
【①栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)、栄養管理学 (選)		
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)、栄養管理学 (選)		
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)、栄養管理学 (選)		
4) 五大栄養素以外の食品成分 (食物繊維、抗酸化物質など) の機能について説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)、栄養管理学 (選)		
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)、栄養管理学 (選)		
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)、栄養管理学 (選)		
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)、栄養管理学 (選)		
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)、栄養管理学 (選)		
【②食品機能と食品衛生】						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
3) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
3) 化学物質 (重金属、残留農薬など) やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		衛生化学I		食品栄養学 (選)		
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			薬物代謝学		乱用薬物・毒物学	
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。	衛生化学II				乱用薬物・毒物学	
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。	衛生化学II				乱用薬物・毒物学	
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。	衛生化学II				乱用薬物・毒物学	
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)			薬物代謝学		乱用薬物・毒物学	
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			薬物代謝学		乱用薬物・毒物学	
7) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) の試験法を列挙し、概説できる。			薬物代謝学		乱用薬物・毒物学	
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)	衛生化学II				乱用薬物・毒物学	
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。	衛生化学II				乱用薬物・毒物学	
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。	衛生化学II				乱用薬物・毒物学	
4) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。	衛生化学II				乱用薬物・毒物学	
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法、化管法など) を説明できる。	衛生化学II				乱用薬物・毒物学	
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			薬物代謝学			
2) 遺伝毒性試験 (Ames試験など) の原理を説明できる。			薬物代謝学			
3) 発がんに至る過程 (イニシエーション、プロモーションなど) について概説できる。			薬物代謝学			
【④放射線の生体への影響】						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	放射化学・薬品学					
2) 代表的な放射性核種 (天然、人工) と生体との相互作用を説明できる。	放射化学・薬品学					
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。	放射化学・薬品学					
4) 非電離放射線 (紫外線、赤外線など) を列挙し、生体への影響を説明できる。	放射化学・薬品学					
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	衛生化学II					
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	衛生化学II					
3) 化学物質の環境内動態 (生物濃縮など) について例を挙げて説明できる。	衛生化学II					
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。	衛生化学II					
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)	衛生化学II					
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	環境科学					
2) 環境基本法の理念を説明できる。	環境科学					
3) 環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など) を防止するための法規制について説明できる。	環境科学					
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。	環境科学					
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。	環境科学					
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)	環境科学					
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	環境科学					
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	環境科学					
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。	環境科学					
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。	環境科学					
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)	環境科学					
3) 大気汚染に影響する気象要因 (逆転層など) を概説できる。	環境科学					
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	衛生化学II					
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。	衛生化学II					
【⑥廃棄物】						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。	衛生化学II					
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。	衛生化学II					
3) マニフェスト制度について説明できる。	衛生化学II					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【①薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係を説明できる。			生理・薬理学 I			
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。			生理・薬理学 I			
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。			生理・薬理学 I			
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。			生理・薬理学 I			
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【②細胞内情報伝達】1～5 参照)			生理・薬理学 I			
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。(E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)			生理・薬理学 I			
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。			生理・薬理学 I			
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5【④代謝】5【⑤排泄】5参照)			生理・薬理学 I			
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。			生理・薬理学 I			
【②動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)				基礎薬理学実習、薬理学実習		
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)				基礎薬理学実習、薬理学実習		
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)				基礎薬理学実習、薬理学実習		
【③日本薬局方】						
1) 日本薬局方記載の生物学的定量法の特徴を説明できる。				薬局方概論		
(2) 身体の病的変化を知る						
【①症候】						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、目経異常、関節痛・関節腫脹、膵背部痛、記憶障害	病気を知る					
【②病態・臨床検査】						
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	病気を知る			臨床検査学		
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				臨床検査学		
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	病気を知る			臨床検査学		
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				臨床検査学		
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				臨床検査学		
6) 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	病気を知る			臨床検査学		
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。				臨床検査学		
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	病気を知る			臨床検査学	実務実習事前学習 I a, b, II a, b	
(3) 薬物治療の位置づけ						
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。	病気を知る				栄養管理学(選)	
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)	病気を知る					
(4) 医薬品の安全性						
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。						セーフティマネージメント演習
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。	薬学入門					
3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害					基礎薬学総合演習	
4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)	薬学入門					
E2 薬理・病態・薬物治療						
(1) 神経系の疾患と薬						
【①自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	生理・薬理学 I					
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	生理・薬理学 I					
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	生理・薬理学 I					
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)				基礎薬理学実習、薬理学実習		
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	生理・薬理学 I					
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。	生理・薬理学 I					
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)				基礎薬理学実習、薬理学実習		
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)	生理・薬理学 I					
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】						
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	生理・薬理学 III					
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。	生理・薬理学 III					
3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	病気を知る			生理・薬理学 III		
4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	生理・薬理学 III			薬物治療学 II		
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	生理・薬理学 III			薬物治療学 II		
6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	生理・薬理学 III			薬物治療学 II		
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	生理・薬理学 III			薬物治療学 II		
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	生理・薬理学 III			薬物治療学 II		
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	生理・薬理学 III			薬物治療学 II		
10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	生理・薬理学 III			薬物治療学 II		
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)について説明できる。	生理・薬理学 III			薬物治療学 II		
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)	生理・薬理学 III					
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)	生理・薬理学 III					
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症(重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症	生理・薬理学 III					
【④化学構造と薬効】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	生理・薬理学 I					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学			
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学			
3) 創傷治癒の過程について説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学			
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学			
2) 免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学			
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息(重複)			生理・薬理学VI、応用薬理学、薬物治療学I、II			
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson(スティーブンス-ジョンソン)症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性過敏症症候群			生理・薬理学VI、応用薬理学、薬物治療学I			
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学、薬物治療学I			
6) 以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 尋常性乾癬、水疱瘡、遊離過剰症、ペーニョット病			生理・薬理学VI、応用薬理学、薬物治療学I			
7) 以下の疾患・特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 バセドウ病(重複)、橋本病(重複)、悪性貧血(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)、シネーゲン病候群			生理・薬理学VI、応用薬理学			
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ(重複)			生理・薬理学VI、応用薬理学、薬物治療学I			
9) 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、膵臓、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学	薬物治療学III		
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学、薬物治療学I			
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学、薬物治療学I			
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学、薬物治療学I			
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲状腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学VI、応用薬理学、薬物治療学I	薬物治療学VI		
【④化学構造と薬効】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			生理・薬理学VI	医薬品化学		
(3) 循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖系疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(AF)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室細拍(VT)、心室細動(VF)、房室ブロック、QT延長症候群	病気を知る	生理・薬理学II		薬物治療学V		
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	病気を知る	生理・薬理学II		薬物治療学V		
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	病気を知る	生理・薬理学II		薬物治療学V		
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)	病気を知る	生理・薬理学II		薬物治療学V		
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患		生理・薬理学II		薬物治療学V		
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)				薬物治療学V		
【②血液・造血系疾患の薬、病態、治療】						
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			生理・薬理学III			
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			生理・薬理学III	薬物治療学IV		
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血			生理・薬理学III	薬物治療学IV		
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学III	薬物治療学IV		
5) 以下の疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓性血小板減少症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E7/F7)【②悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)			生理・薬理学III	薬物治療学IV		
【③泌尿器系、生殖系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			生理・薬理学II			
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学III		
3) ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学III		
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学II	薬物治療学III		
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石				薬物治療学III		
6) 以下の生殖系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内腫瘍、子宮筋腫			生理・薬理学V	薬物治療学III		
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学V			
8) 以下の生殖系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症			生理・薬理学V			
【④化学構造と薬効】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			生理・薬理学II	生理・薬理学V		
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学IV			
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学IV			
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学IV			
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			生理・薬理学IV			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
6) 機能性消化管障害(過敏性腸症候群を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物(催吐薬)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
9) 痔について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅵ		
【③化学構造と薬効】						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			生理・薬理学Ⅴ			
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅲ		
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅳ		薬物治療学Ⅲ		
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学Ⅲ		
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
1) 性ホルモン関連薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			生理・薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅵ		
2) Basedow(バセドウ)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅵ		
3) 甲状腺炎(慢性(橋本病)、亜急性)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅵ		
4) 尿崩症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			生理・薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅵ		
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing(クッシング)症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全(急性、慢性)、子宮内腫瘍(重複)、アジソン病(重複)			生理・薬理学Ⅴ	薬物治療学Ⅵ		
【③化学構造と薬効】						
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			生理・薬理学Ⅴ			
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬						
【①眼疾患の薬、病態、治療】						
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅰ		薬物治療学Ⅵ		
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅰ		薬物治療学Ⅵ		
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		生理・薬理学Ⅰ		薬物治療学Ⅵ		
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症		生理・薬理学Ⅰ		薬物治療学Ⅵ		
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】						
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬物治療学Ⅱ		
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症(重複)、副鼻腔炎(重複)、中耳炎(重複)、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎				薬物治療学Ⅱ		
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】						
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (F2(2)【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照)				生理・薬理学Ⅵ、薬物治療学Ⅰ		
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 (F2(7)【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照)				生理・薬理学Ⅵ、薬物治療学Ⅰ		
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				生理・薬理学Ⅵ、薬物治療学Ⅰ		
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾癬(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)				生理・薬理学Ⅵ、薬物治療学Ⅰ		
【④化学構造と薬効】						
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。				生理・薬理学Ⅵ	医薬品化学	
(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬						
【①抗菌薬】						
1) 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キヌロン系、グリコペプチド系、抗緑膿菌薬、セフトロキサム系(S15系を含む)、その他の抗菌薬				生理・薬理学Ⅵ、細菌学		
2) 細菌感染症に関する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。				生理・薬理学Ⅵ、細菌学		
【②抗菌薬の耐性】						
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。				生理・薬理学Ⅵ、細菌学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 上気道炎 (かぜ症候群 (大部分がウイルス感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎				生理・薬理学VI、細菌学		
2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎				生理・薬理学VI、細菌学		
3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎				生理・薬理学VI、細菌学		
4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎				生理・薬理学VI、細菌学		
5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等				生理・薬理学VI、細菌学		
6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				生理・薬理学VI、細菌学		
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癬、毛嚢炎、ハンセン病				生理・薬理学VI、細菌学		
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				生理・薬理学VI、細菌学		
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等				生理・薬理学VI、細菌学		
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症				生理・薬理学VI、細菌学		
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	ウイルス学			生理・薬理学VI		
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	ウイルス学			生理・薬理学VI		
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	ウイルス学			生理・薬理学VI		
4) ウイルス性肝炎 (HAV、HBV、HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん) ・症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (重複)	ウイルス学			生理・薬理学VI		
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	ウイルス学			生理・薬理学VI、薬物治療学 I		
6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性紅斑 (リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルト-ヤコブ) 病	ウイルス学			生理・薬理学VI		
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。				生理・薬理学VI、細菌学		
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症				生理・薬理学VI、細菌学		
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢				生理・薬理学VI、細菌学		
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 回虫症、蟯虫症、アニサキス症				生理・薬理学VI、細菌学		
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。					腫瘍治療学	
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査 (細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー (腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学 (がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因					腫瘍治療学	
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。					腫瘍治療学	
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン阻害薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬				生理・薬理学VI、応用薬理学	薬物治療学VI	
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				生理・薬理学VI		
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用 (下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害 (手足症候群を含む)、血小板減少等) の軽減のための対処法を説明できる。				生理・薬理学VI	薬物治療学VI	
4) 代表的ながん化学療法レジメン (FOLFOX等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。					薬物治療学VI、腫瘍治療学	
5) 以下の白血病について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性 (慢性) 骨髄性白血病、急性 (慢性) リンパ性白血病、成人T細胞白血病 (ATL)					薬物治療学IV	
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬物治療学IV	
7) 骨肉腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬物治療学IV	
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌					薬物治療学IV、VI	
9) 肺癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬物治療学IV	
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 脳腫瘍、嗅球細胞腫、喉頭癌、咽頭癌、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍						薬学総合演習 I、II
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌				生理・薬理学VI		
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					腫瘍治療学	
13) 乳癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。					薬物治療学IV	
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態 (病態生理、症状等) と治療を説明できる。				薬物治療学 I		
2) がん性疼痛の病態 (病態生理、症状等) と薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。				薬物治療学 I		
【⑩化学構造と薬効】						
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。				生理・薬理学VI		
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【①組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。					遺伝子工学	先端医療学
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。					遺伝子工学	先端医療学
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。					遺伝子工学	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)						遺伝子工学
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)						遺伝子工学
2) 抽出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。						遺伝子工学
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。						遺伝子工学
4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。						遺伝子工学
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。						一般用医薬品学
2) 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。						一般用医薬品学
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。						一般用医薬品学
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)						一般用医薬品学 一般用医薬品学演習
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等						一般用医薬品学
6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						一般用医薬品学
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						一般用医薬品学 一般用医薬品学演習
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)						一般用医薬品学
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。						東洋医学、生薬学実習
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚寒、寒熱、表裏、気血水、証						東洋医学、生薬学実習
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。						東洋医学、生薬学実習
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。	薬用植物学					東洋医学、生薬学実習
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。						東洋医学、生薬学実習
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。						東洋医学、生薬学実習 漢方治療学
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。						東洋医学、生薬学実習 漢方治療学
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。						生薬学実習 漢方治療学
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)						薬物治療学Ⅱ、Ⅳ、実務実習事前学習Ⅱa、医薬情報学演習
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応 (解毒薬を含む) を討議する。(知識・態度)						実務実習事前学習Ⅱa
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)						実務実習事前学習Ⅱa
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
3) 医薬品 (後発医薬品等を含む) の開発過程で行われる試験 (非臨床試験、臨床試験、安定性試験等) と得られる医薬品情報について概説できる。						医薬情報学、薬局方概論 医薬情報学演習
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。						医薬情報学、薬局方概論 医薬情報学演習
5) 医薬品情報に関する代表的な法律・制度 (「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など) とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。						医薬情報学、薬局方概論 医薬情報学演習
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけについて説明できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の記載項目 (警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など) を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への授与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)						医薬情報学 医薬情報学演習
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)						医薬情報学 医薬情報学演習
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)						医薬情報学 医薬情報学演習
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点 (知的所有権、守秘義務など) について説明できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
2) 代表的な臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など) の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性 (研究結果の正確度や再現性) と外的妥当性 (研究結果の一般化の可能性) について概説できる。 (E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)						医薬情報学 医薬情報学演習
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						医薬情報学 医薬情報学演習
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。						生物統計学
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。						生物統計学
3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、χ ² 分布、F分布) について概説できる。						生物統計学
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。						生物統計学
5) 二群間の差の検定 (t検定、χ ² 検定など) を実施できる。(技能)						生物統計学
6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。						生物統計学
7) 基本的な生存時間解析法 (カプラン・マイヤー曲線など) について概説できる。						腫瘍治療学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究(試験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説できる。						腫瘍治療学
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。						腫瘍治療学
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。						腫瘍治療学
4) 副作用の因果関係を評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。						腫瘍治療学
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。						腫瘍治療学
6) 介入研究の計画上の技法(症例数設定、ランダム化、盲検化など)について概説できる。						腫瘍治療学
7) 統計解析時の注意点について概説できる。						腫瘍治療学
8) 介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。						腫瘍治療学
9) 臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。(知識・技能)						腫瘍治療学
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。						医薬情報学
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)						医薬情報学
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)						医薬情報学
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。						実務実習事前学習 I a
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						実務実習事前学習 I a
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム(POS)を説明できる。						実務実習事前学習 I a
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。						実務実習事前学習 I a
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。						実務実習事前学習 I a
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。(A(2) 【③患者の権利】参照)						実務実習事前学習 I a
(3) 個別化医療						
【①遺伝的要因】						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的要因について、例を挙げて説明できる。						基礎薬物動態学(選)
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的要因(薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など)について、例を挙げて説明できる。						基礎薬物動態学(選)
3) 遺伝的要因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						基礎薬物動態学(選)
【②年齢的要因】						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬学総合演習 I、II
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬剤学 I
【③臓器機能低下】						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						薬物動態学 I
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						薬物動態学 I
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。						薬物動態学 I
【④その他の要因】						
1) 薬物の効果に影響する生理的要因(性差、閉経、日内変動など)を列挙できる。						薬剤学 I
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬剤学 I
3) 栄養状態の異なる患者(肥満、低アルブミン血症、腹水など)における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。						薬物治療学 V、実務実習事前学習 I b
【⑤個別化医療の計画・立案】						
1) 個別の患者情報(遺伝的要因、年齢的要因、臓器機能など)と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)						実務実習事前学習 I b、II b
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。						実務実習事前学習 II b
E4 薬の生体内運命						
(1) 薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
3) 薬物の吸収に影響する因子(薬物の物性、生理学的要因など)を列挙し、説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						薬剤学 I
5) 初回通過効果について説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
2) 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。						薬剤学 I
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。						薬剤学 I
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						薬剤学 I
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
2) 薬物代謝の第 I 相反応(酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
3) 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。						薬剤学 I
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。						薬剤学 I
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。						薬剤学 I、基礎薬物動態学(選)

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。				薬物動態学 I、II		
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)				薬物動態学 I、II		
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)				薬物動態学 I、II		
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。				薬物動態学 II		
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。				薬物動態学 II		
6) 薬物動態学-薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。						薬学総合演習 I、II
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。				薬物動態学 I		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。				薬物動態学 I		
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)				薬物動態学 I		
4) ポピュレーションファーマコキネティクス の概念と応用について概説できる。				薬物動態学 I		
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。				薬剤学 III		
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。				薬剤学 III		
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2 (2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び【②各種の化学平衡】2. 参照)				薬剤学 III		
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。				薬剤学 III		
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。				薬剤学 III		
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。				薬剤学 III		
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。				薬剤学 III		
【③分散系材料】						
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2 (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照)		薬剤学 II				
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。		薬剤学 II				
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。		薬剤学 II				
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		薬剤学 II				
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。 (C1 (3) 【①反応速度】1. ~7. 参照)		薬剤学 II		製剤学		
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。		薬剤学 II		製剤学		
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。		薬剤学 II		製剤学		
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。				製剤学		
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。				製剤学		
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。				製剤学		
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透析に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。				製剤学		
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。		薬剤学 II		製剤学		
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。				製剤学		
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。				製剤学、薬局方概論		
【③生物学的同等性】						
1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。		薬剤学 II		製剤学		
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【①DDS の必要性】						
1) DDS の概念と有用性について説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、F4(1) 【4代講】4. も参照)				製剤学、薬剤学 III		
【②コントロールドリリース (放出制御)】						
1) コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
3) コントロールドリリース技術を活用した代表的な医薬品を列挙できる。				製剤学、薬剤学 III		
【③ターゲティング (標的指向化)】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
3) ターゲティング技術を活用した代表的な医薬品を列挙できる。				製剤学、薬剤学 III		
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。				製剤学、薬剤学 III		
3) 吸収改善技術を活用した代表的な医薬品を列挙できる。				製剤学、薬剤学 III		
F 薬学臨床						
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として 2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)		キャリア教育				
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)		キャリア教育				
3) 一次救命処置 (心肺蘇生、外傷対応等) を説明し、シミュレータを用いて実施できる。 (知識・技能)				外書講読 III		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②臨床における心構え】 [A (1)、(2)参照]						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)			総合学習Ⅲ			
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)			総合学習Ⅲ			
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)			総合学習Ⅲ			
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				実務実習事前学習Ⅰa~c、Ⅱa~c		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 [B (3)①参照]			薬学と生命倫理Ⅱ			
6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
10) 産後期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
15) 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
(2) 処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】 [B (2)、(3)参照]						
1) 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、疑義照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa、Ⅱa		
2) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
【②処方せんと疑義照会】						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				実務実習事前学習Ⅰa~c、Ⅱa~c		
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				実務実習事前学習Ⅰa~c、Ⅱa~c		
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。			調剤学	実務実習事前学習Ⅰa~c、Ⅱa~c		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。			調剤学	実務実習事前学習Ⅰa~c、Ⅱa~c		
5) 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。			調剤学	実務実習事前学習Ⅰa~c、Ⅱa~c		
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)				実務実習事前学習Ⅰa~c、Ⅱa~c		
7) 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)				実務実習事前学習Ⅰc、Ⅱc	実務実習Ⅰ、Ⅱ	
8) 注射薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)				実務実習事前学習Ⅰc、Ⅱa.c	実務実習Ⅰ、Ⅱ	
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)				実務実習事前学習Ⅰc、Ⅱc	実務実習Ⅰ、Ⅱ	
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方処方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)				実務実習事前学習Ⅰc、Ⅱc	実務実習Ⅰ、Ⅱ	
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1) 前) 薬袋、薬札(ラベル)に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)				実務実習事前学習Ⅰc、Ⅱc		
2) 前) 主な医薬品の成分(一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				実務実習事前学習Ⅰc、Ⅱc		
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)				実務実習事前学習Ⅰc、Ⅱc		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。			調剤学			
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				実務実習事前学習Ⅱa		
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				実務実習事前学習Ⅱa.b		
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)				実務実習事前学習Ⅱa		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)				実務実習事前学習Ⅰc、Ⅱc		
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)				実務実習事前学習Ⅱa.b	実務実習Ⅰ、Ⅱ	
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)				実務実習事前学習Ⅱa.b	実務実習Ⅰ、Ⅱ	
18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。			調剤学	実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)				実務実習事前学習Ⅰa.b、Ⅱa.b		
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)					実務実習Ⅰ、Ⅱ	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。			調剤学			
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。			調剤学			
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。			調剤学			
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。			調剤学			
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。		放射化学・薬品学				
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				実務実習事前学習 I c		
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				実務実習事前学習 I a	漢方治療学演習	
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				実務実習事前学習 I c		
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)					実務実習 I、II	
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)					実務実習 I、II	
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					実務実習 I、II	
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)					実務実習 I、II	
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)					実務実習 I、II	
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。			調剤学	実務実習事前学習 I a, b、II a, b		
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。				実務実習事前学習 I a, b、II a, b		
3) 前) 代表的なインシデント(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)					セーフティマネージメント演習	
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				実務実習事前学習 II a, b		
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				実務実習事前学習 II a, b		
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用温度および調製時の注意点を説明できる。				実務実習事前学習 II a, b		
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。					セーフティマネージメント演習	
8) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)					実務実習 I、II、セーフティマネージメント演習	
9) 調剤ミス防止のために工夫されている事項を具体的に説明できる。					実務実習 I、II、セーフティマネージメント演習	
10) 施設内のインシデント(ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)					実務実習 I、II、セーフティマネージメント演習	
11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)				実務実習事前学習 II a, b	実務実習 I、II	
12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)					実務実習 I、II	
13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)					実務実習 I、II	
14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
【③薬物療法の実践】						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				コミュニケーション演習、実務実習事前学習 I, b、II a, b	病院薬学演習	
2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E3(2)①参照]				実務実習事前学習 I a, b、II a, b		
3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				実務実習事前学習 I a, b、II a, b	病院薬学演習	
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)				実務実習事前学習 I a, b、II a, b	病院薬学演習	
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)					病院薬学演習、実務実習 I、II	
6) 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)					実務実習 I、II	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)					病院薬学演習、実務実習 I、II	
【②医薬品情報の収集と活用】 [E3(1)参照]						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)			医薬情報学	医薬情報学演習		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					実務実習 I、II	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)					実務実習 I、II	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)					実務実習 I、II	
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)					実務実習 I、II	
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取り扱うことができる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				実務実習事前学習 I a	病院薬学演習	
2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				実務実習事前学習 I a	病院薬学演習	
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				実務実習事前学習 I a		
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				実務実習事前学習 I b		
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				実務実習事前学習 I b、II b		
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				栄養管理学(選)		
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠から薬物治療方針を確認できる。					実務実習 I、II	
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。					実務実習 I、II	
9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
13) 処方提案に際し、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					実務実習 I、II	
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。			薬物治療学 I、II	薬物治療学 III~VI		
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)				実務実習事前学習 II a, b		
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)				実務実習事前学習 II a		
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)					病院薬学演習、実務実習 I、II	
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の方法を提案できる。(知識・態度)					病院薬学演習、実務実習 I、II	
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)					病院薬学演習、実務実習 I、II	
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。					病院薬学演習、実務実習 I、II	
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					病院薬学演習、実務実習 I、II	
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					病院薬学演習、実務実習 I、II	
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)					病院薬学演習、実務実習 I、II	
11) 報告に必要な要素(SWH)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					実務実習 I、II	
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)					実務実習 I、II	
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					実務実習 I、II	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。	コミュニケーション論			栄養管理学 (選)		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。	コミュニケーション論			栄養管理学 (選)		
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法 (連携クリニックバス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等) を説明できる。					病院薬学演習	
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)					実務実習 I、II	
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態 (病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化 (治療効果、副作用、心理状態、QOL等) の情報を共有する。(知識・態度)					実務実習 I、II	
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議 (カンファレンスや患者回診への参加等) する。(知識・態度)					実務実習 I、II	
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)					実務実習 I、II	
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
9) 病院内の多様な医療チーム (ICU、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等) の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制 (地域包括ケア) およびその意義について説明できる。				実務実習事前学習 I a, b、II a, b		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				実務実習事前学習 I a, b、II a, b		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					実務実習 I、II	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					実務実習 I、II	
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B (4) 参照]						
【①在宅 (訪問) 医療・介護への参画】						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				実務実習事前学習 II a		
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				実務実習事前学習 II a		
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				実務実習事前学習 II a		
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務 (訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務) を体験する。(知識・態度)				実務実習事前学習 II a	実務実習 I、II	
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)				実務実習事前学習 II a	実務実習 I、II	
6) 在宅患者の病状 (症状、疾患と重症度、栄養状態等) とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)				実務実習事前学習 II a	実務実習 I、II	
【②地域保健 (公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動) への参画】						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動 (薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等) について説明できる。			公衆衛生学			
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			公衆衛生学			
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)					実務実習 I、II	
4) 地域住民の衛生管理 (消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等) における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)					実務実習 I、II	
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E 2 (9) 参照]						
1) 前) 現在の医療システムの中のプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)				実務実習事前学習 I a, b、II a, b	一般用医薬品学演習	
2) 前) 代表的な症候 (頭痛・腹痛・発熱等) を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)				実務実習事前学習 I a, b、II a, b	一般用医薬品学演習	
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)				実務実習事前学習 I a, b、II a, b	一般用医薬品学演習	
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)				実務実習事前学習 I a, b、II a, b	一般用医薬品学演習	
5) 薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)					実務実習 I、II	
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状 (疾患、重症度等) や体調を推測できる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応 (医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等) を選択できる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
8) 選択した薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意などを来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)					実務実習 I、II	
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)					実務実習 I、II	
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。				実務実習事前学習 I a, b、II a, b		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					実務実習 I、II	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)					実務実習 I、II	
9 薬学研究						
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。					特別研究 I	特別研究 II
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。						
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)					特別研究 I	特別研究 II
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)					特別研究 I	特別研究 II
(2) 研究に必要な法規制と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。					特別研究 I	特別研究 II
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。					特別研究 I	特別研究 II
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規制を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲					特別研究 I	特別研究 II
(3) 研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)					特別研究 I	特別研究 II
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)					特別研究 I	特別研究 II
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)					特別研究 I	特別研究 II
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)					特別研究 I	特別研究 II
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)					特別研究 I	特別研究 II
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)						特別研究 II

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年		1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 ¹⁾		100	100	100	140	140	140
入学時の学生数 ²⁾	A	56	66	90	92	94	158
在籍学生数 ³⁾	B	63	68	97	68	72	168
過年度在籍者数 ⁴⁾	留年による者 C	8	19	35	21	21	85
	休学による者 D	0	1	1	0	2	3
編入学などによる在籍者数	E	0	0	3	0	5	2
ストレート在籍者数 ⁵⁾	F	55	48	58	47	44	78
ストレート在籍率 ⁶⁾	F/A	0.98	0.73	0.64	0.51	0.47	0.49
過年度在籍率 ⁷⁾	(C+D)/B	0.13	0.29	0.37	0.31	0.32	0.52

1) 各学年が入学した年度の入学者選抜で設定されていた入学定員を記載してください。

2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。

3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。

4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。

5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。
 ストレート在籍者数 [B-(C+D+E)]

6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を小数点以下第2位まで記載してください。(％表示でなく、1.00のように記載ください)

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別学籍異動状況

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1年次	在籍者数 ¹⁾	115	111	100	77	63
	休学者数 ²⁾	1	1	1	0	3
	退学者数 ²⁾	28	23	13	14	2
	留年者数 ²⁾	18	9	10	8	7
	進級率 ³⁾	0.59	0.70	0.76	0.71	0.81
2年次	在籍者数 ¹⁾	161	101	101	101	68
	休学者数 ²⁾	2	0	1	0	1
	退学者数 ²⁾	18	11	7	6	0
	留年者数 ²⁾	28	22	22	13	15
	進級率 ³⁾	0.70	0.67	0.70	0.81	0.76
3年次	在籍者数 ¹⁾	135	129	88	82	97
	休学者数 ²⁾	1	1	0	0	3
	退学者数 ²⁾	3	6	4	2	2
	留年者数 ²⁾	15	18	11	15	14
	進級率 ³⁾	0.86	0.81	0.83	0.79	0.80
4年次	在籍者数 ¹⁾	103	121	107	76	68
	休学者数 ²⁾	2	1	1	0	0
	退学者数 ²⁾	2	4	0	1	0
	留年者数 ²⁾	3	0	1	3	4
	進級率 ³⁾	0.93	0.96	0.98	0.95	0.94
5年次	在籍者数 ¹⁾	102	96	117	105	72
	休学者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	退学者数 ²⁾	0	1	0	0	0
	留年者数 ²⁾	0	0	0	0	0
	進級率 ³⁾	1.00	0.99	1.00	1.00	1.00

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A		107	111	100	120	114
学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾ B		66	70	68	56	71
卒業率 ²⁾ B/A		0.62	0.63	0.68	0.47	0.62
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾	6年 C	57	64	57	53	63
	7年	3	3	6	0	6
	8年	2	1	0	3	0
	9年以上	1	0	0	0	0
入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D		127	139	121	177	158
ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D		0.45	0.46	0.47	0.30	0.40

1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業者数」(B)にも含みません。

なお、卒業者数は、当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数を記載してください。

2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値(B/A)を小数点以下第2位まで記載してください。

3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入学者を除く)を記載してください。

5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値(C/D)を、小数点以下第2位まで記載してください。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	平均値 ⁵⁾
入学定員	A	140	140	140	100	100	100	93
実入学者数 ¹⁾	B	158	94	92	90	66	56	
入学定員充足率 ²⁾	B/A	112.9%	67.1%	65.7%	90.0%	66.0%	56.0%	77.2%
編入学定員		6	6	6	6	6	6	2
編入学者数 ³⁾	C+D+E	3	3	3	1	1	0	
編入学した学年別の内数 ⁴⁾	2年次 C	0	2	3	0	1	0	1
	3年次 D	0	0	0	0	0	0	0
	4年次 E	3	1	0	1	0	0	0

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値(小数点以下第2位まで)を記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。
- 4) 編入(転入)学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については小数点以下第2位まで記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況(入学試験種類別)

	学科名	入試の種類		2017年度入試	2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
				(2016年度実施)	(2017年度実施)	(2018年度実施)	(2019年度実施)	(2020年度実施)	(2021年度実施)	
薬 学 部	薬学	一般入試	受験者数	151	193	163	129	180	186	64%
			合格者数	148	188	151	128	127	129	
			入学者数(A)	33	43	41	34	24	18	
			募集定員数(B)	58	58	37	44	44	47	
			A/B*100(%)	57%	74%	111%	77%	55%	38%	
		大学入学共通テスト 利用入試	受験者数	140	124	143	92	140	118	
			合格者数	139	123	142	88	125	84	
			入学者数(A)	25	18	16	11	12	3	
			募集定員数(B)	22	22	19	20	20	18	
			A/B*100(%)	114%	82%	84%	55%	60%	17%	
		総合選抜(AO) 入試	受験者数	15	9	7	3	8	4	
			合格者数	15	9	7	3	8	4	
			入学者数(A)	12	9	7	3	8	4	
			募集定員数(B)	14	14	10	6	6	10	
			A/B*100(%)	86%	64%	70%	50%	133%	40%	
		指定校推薦	受験者数	11	10	16	10	10	5	
	合格者数		11	10	16	10	10	5		
	入学者数(A)		11	10	15	10	8	2		
	募集定員数(B)		12	12	12	12	12	12		
	A/B*100(%)		92%	83%	125%	83%	67%	17%		
	公募推薦入試	受験者数	16	20	13	13	11	12		
		合格者数	15	18	13	13	11	12		
		入学者数(A)	8	9	7	5	4	5		
		募集定員数(B)	32	32	20	15	15	10		
		A/B*100(%)	25%	28%	35%	33%	27%	50%		
	学士・社会人入試	受験者数	0	0	0	0	0	0		
		合格者数	0	0	0	0	0	0		
		入学者数(A)	0	0	0	0	0	0		
		募集定員数(B)	若干名	若干名	1	1	1	1		
		A/B*100(%)	#VALUE!	#VALUE!	0%	0%	0%	0%		
	留学生入試	受験者数	5	3	4	3	0	6		
		合格者数	5	3	4	3	0	3		
		入学者数(A)	5	3	4	3	0	2		
		募集定員数(B)	若干名	若干名	1	2	2	2		
		A/B*100(%)	#VALUE!	#VALUE!	400%	150%	0%	100%		
	帰国生徒入試 ※2021年度までは 設定なし。2022年 度入試より帰国生 徒、学士・社会人 入試合わせて定員 1名	受験者数								
合格者数										
入学者数(A)										
募集定員数(B)										
A/B*100(%)										
関連校入試 ※2018年度まで	受験者数	0	0							
	合格者数	0	0							
	入学者数(A)	0	0							
	募集定員数(B)	2	2							
	A/B*100(%)	0%	0%							
学 科 計	受験者数	338	359	346	250	349	331			
	合格者数	333	351	333	245	281	237			
	入学者数(A)	94	92	90	66	56	34			
	募集定員数(B)	140	140	100	100	100	100			
	A/B*100(%)	67%	66%	90%	66%	56%	34%			
編(転)入試験	受験者数	6	3	1	2	1	2			
	合格者数	4	3	1	2	1	2			
	入学者数(A)	3	3	1	1	0	2			
	募集定員数(B)	6	6	6	6	6	6			
	A/B*100(%)	50%	50%	17%	17%	0%	33%			

- [注] 1 入学者数は、実施した入試により**5月1日**(評価対象年度に実施した入試のデータは調査提出時)に新入学者となっている学生数を記入してください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B*100(%)]を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬科学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 ¹⁾
14名	9名	6名	0名	29名	25名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 ²⁾
4名	4名	1名	0名	9名	5名

- 1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2の教員は含まない
 2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 ¹⁾	兼任教員 ²⁾
0名	0名

- 1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者
 2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 ¹⁾	合計
0名	0名	0名	0名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

- 1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員

事務職員 ¹⁾	技能職員 ²⁾	その他 ³⁾	合計
0名	1名	0名	1名

- 1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤者数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)
 2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員
 3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
70代	1名	0名	0名	0名	1名	3.45%
60代	6名	0名	0名	0名	6名	20.69%
50代	6名	3名	0名	0名	9名	31.03%
40代	1名	6名	3名	0名	10名	34.48%
30代	0名	0名	3名	0名	3名	10.35%
20代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
合計	14名	9名	6名	0名	29名	100.0%

専任教員の定年年齢:(65 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率
男性	13名	7名	5名	0名	25名	86.20%
女性	1名	2名	1名	0名	4名	13.80%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾							
薬学科	教授						細胞生物学	6.00	0.20							
							生物学	3.00	0.10							
							国際保健福祉論(全学部)	1.50	0.05							
							生化学Ⅰ	4.50	0.15							
							免疫学	18.00	0.60							
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20							
							薬学入門	18.00	0.60							
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15							
							基礎薬学総合演習	4.50	0.15							
							生化学実習	◎ 33.75	1.13							
							生化学Ⅲ	18.00	0.60							
							ウイルス学	18.00	0.60							
							細菌学	9.00	0.30							
							薬学と生命倫理Ⅱ	1.50	0.05							
							生化学Ⅲ	0.00	0.00							
							細菌学	0.00	0.00							
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
							基礎生化学実習	◎ 33.75	1.13							
							基礎薬学総合演習	4.50	0.15							
							授業担当時間の合計								187.50	6.25
薬学科	教授						天然医薬品化学Ⅱ	18.00	0.60							
							生物有機化学	18.00	0.60							
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20							
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
							生薬学実習	◎ 33.75	1.13							
							漢方治療学演習	18.00	0.60							
							天然医薬品化学Ⅰ	18.00	0.60							
							応用機器分析学	18.00	0.60							
							薬学と生命倫理Ⅱ	1.50	0.05							
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
							授業担当時間の合計								141.75	4.73
							薬学科	教授						生理・薬理学Ⅰ	18.00	0.60
生理・薬理学Ⅵ	18.00	0.60														
総合学習Ⅱ	6.00	0.20														
薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15														
基礎薬学総合演習	4.50	0.15														
基礎薬理学実習	◎ 33.75	1.13														
応用薬理学	4.50	0.15														
病気を知る	6.00	0.20														
薬学と生命倫理Ⅱ	3.00	0.10														
薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10														
基礎薬学総合演習	1.50	0.05														
薬理学実習	◎ 10.50	0.35														
授業担当時間の合計														113.25	3.78	
薬学科	教授						コミュニケーション論	22.50	0.75							
							総合学習Ⅲ	4.50	0.15							
							薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10							
							実務実習事前学習Ⅰa	11.25	0.38							
							実務実習事前学習Ⅰb	33.75	1.13							
							基礎薬学総合演習	4.50	0.15							
							病院薬学演習	18.00	0.60							
							薬物治療学Ⅴ	18.00	0.60							
							物理化学Ⅱ	18.00	0.60							
							薬学総合演習Ⅱ	4.50	0.15							
							実務実習事前学習Ⅱa	11.25	0.38							
							実務実習事前学習Ⅱb	33.75	1.13							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
							授業担当時間の合計								184.50	6.15

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾
薬学科	教授						キャリア教育	13.50	0.45
							治験コーディネーター論	18.00	0.60
							総合学習Ⅲ	4.50	0.15
							薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10
							実務実習事前学習Ⅰc	33.75	1.13
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10
							薬局方概論	18.00	0.60
							セーフティネット演習	18.00	0.60
							薬物治療学Ⅵ	18.00	0.60
							栄養管理学	18.00	0.60
							薬学総合演習Ⅱ	4.50	0.15
							実務実習事前学習Ⅱc	33.75	1.13
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	187.50	6.25
							薬学科	教授	
物理学Ⅱ	9.00	0.30							
QOLと人間の尊厳	22.50	0.75							
総合学習Ⅰ	6.00	0.20							
薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10							
基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
放射化学・薬品学	18.00	0.60							
薬学数学	9.00	0.30							
薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
授業担当時間の合計	90.00	3.00							
薬学科	教授						物理学Ⅰ	18.00	0.60
							生理・薬理学Ⅵ	4.50	0.15
							機能形態学Ⅲ	18.00	0.60
							総合学習Ⅰ	6.00	0.20
							総合学習Ⅲ	4.50	0.15
							薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10
							実務実習事前学習Ⅰa	33.75	1.13
							実務実習事前学習Ⅰb	11.25	0.38
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10
							薬物治療学Ⅱ	18.00	0.60
							一般用医薬品学演習	9.00	0.30
							薬学総合演習Ⅱ	6.00	0.20
							薬学総合演習Ⅱ	4.50	0.15
							実務実習事前学習Ⅱa	33.75	1.13
							実務実習事前学習Ⅱb	11.25	0.38
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	186.00	6.20
薬学科	教授						薬物治療学Ⅲ	18.00	0.60
							外書講読Ⅲ	18.00	0.60
							総合学習Ⅲ	4.50	0.15
							薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10
							実務実習事前学習Ⅰa	33.75	1.13
							実務実習事前学習Ⅰb	11.25	0.38
							基礎薬学総合演習	4.50	0.15
							病院薬学演習	18.00	0.60
							医薬情報学	18.00	0.60
							コミュニケーション演習	4.50	0.15
							医薬情報学演習	18.00	0.60
							薬学と生命倫理Ⅱ	3.00	0.10
							薬学総合演習Ⅱ	4.50	0.15
							実務実習事前学習Ⅱa	33.75	1.13
							実務実習事前学習Ⅱb	11.25	0.38
基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
授業担当時間の合計	205.50	6.85							
薬学科	教授						生物統計学	16.50	0.55
							生理・薬理学Ⅱ	18.00	0.60
							基礎機能形態学	4.50	0.15
							総合学習Ⅰ	6.00	0.20
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15
							基礎薬学総合演習	4.50	0.15
							基礎薬理学実習	◎ 33.75	1.13
							応用薬理学	4.50	0.15
							機能形態学Ⅱ	18.00	0.60
							病氣を知る	6.00	0.20
							薬学と生命倫理Ⅱ	7.50	0.25
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	128.25	4.28

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾							
薬学科	教授						公衆衛生学	18.00	0.60							
							病理学	18.00	0.60							
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20							
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15							
							薬学総合演習Ⅱ	4.50	0.15							
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10							
							薬学英語Ⅰ	18.00	0.60							
							先端医療学	18.00	0.60							
							食品栄養学	18.00	0.60							
							薬学と生命倫理Ⅱ	3.00	0.10							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
							衛生薬学実習	◎ 33.75	1.13							
							授業担当時間の合計		146.25	4.88						
							薬学科	教授						衛生化学Ⅰ	18.00	0.60
総合学習Ⅱ	6.00	0.20														
薬学総合演習Ⅰ	6.00	0.20														
基礎薬学総合演習	6.00	0.20														
環境科学	18.00	0.60														
衛生化学Ⅱ	18.00	0.60														
乱用薬物・毒物学	18.00	0.60														
薬学総合演習Ⅱ	1.50	0.05														
基礎薬学総合演習	3.00	0.10														
衛生薬学実習	◎ 33.75	1.13														
授業担当時間の合計		128.25	4.28													
薬学科	教授													医薬品化学	18.00	0.60
														無機化学Ⅱ	18.00	0.60
														有機化学Ⅱ	18.00	0.60
							総合学習Ⅰ	6.00	0.20							
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15							
							基礎薬学総合演習	10.50	0.35							
							有機化学Ⅰ	18.00	0.60							
							反応有機化学	18.00	0.60							
							有機化学Ⅳ	18.00	0.60							
							薬学と生命倫理Ⅱ	3.00	0.10							
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
							薬化学実習	◎ 33.75	1.13							
							基礎薬学総合演習	4.50	0.15							
							授業担当時間の合計		173.25	5.78						
薬学科	教授						生理・薬理学Ⅴ	18.00	0.60							
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20							
							QOLと人間の尊厳	7.50	0.25							
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15							
							基礎薬学総合演習	6.00	0.20							
							基礎薬理学実習	◎ 7.50	0.25							
							応用薬理学	4.50	0.15							
							生理・薬理学Ⅲ	18.00	0.60							
							病気を知る	6.00	0.20							
							視能学総合演習Ⅱ（視機能療法学科）	3.00	0.10							
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
							薬理学実習	◎ 33.75	1.13							
							授業担当時間の合計		119.25	3.98						
薬学科	教授						薬剤学Ⅲ	18.00	0.60							
							物理化学Ⅰ	18.00	0.60							
							総合学習Ⅲ	4.50	0.15							
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15							
							基礎薬学総合演習	4.50	0.15							
							薬剤学Ⅱ	18.00	0.60							
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
							薬剤学実習	◎ 33.75	1.13							
							授業担当時間の合計		105.75	3.53						

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾
薬学科	准教授						一般用医薬品学	18.00	0.60
							薬物動態学Ⅰ	18.00	0.60
							薬物治療学Ⅰ	18.00	0.60
							総合学習Ⅲ	4.50	0.15
							薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10
							実務実習事前学習Ⅰa	11.25	0.38
							実務実習事前学習Ⅰb	33.75	1.13
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10
							病院薬学演習	18.00	0.60
							基礎薬物動態学	18.00	0.60
							一般用医薬品学演習	15.00	0.50
							薬学総合演習Ⅱ	4.50	0.15
							実務実習事前学習Ⅱa	11.25	0.38
							実務実習事前学習Ⅱb	33.75	1.13
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	213.00	7.10
							薬学科	准教授	
基礎機能形態学	18.00	0.60							
QOLと人間の尊厳	22.50	0.75							
総合学習Ⅰ	6.00	0.20							
薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15							
基礎薬学総合演習	3.00	0.10							
基礎薬理学実習	◎ 33.75	1.13							
応用薬理学	4.50	0.15							
理科系作文法Ⅱ	18.00	0.60							
薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
薬理学実習	◎ 33.75	1.13							
授業担当時間の合計	157.50	5.25							
薬学科	准教授								
							機器分析学	18.00	0.60
							総合学習Ⅰ	6.00	0.20
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10
							基礎薬学総合演習	6.00	0.20
							分析化学Ⅰ	18.00	0.60
							分析学実習	◎ 33.75	1.13
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05
授業担当時間の合計	108.75	3.63							
薬学科	准教授						理科系作文法Ⅰ	18.00	0.60
							外書講読Ⅱ	18.00	0.60
							総合学習Ⅲ	4.50	0.15
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15
							基礎薬学総合演習	4.50	0.15
							薬学英语Ⅱ	18.00	0.60
							薬剤学Ⅰ	18.00	0.60
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10
授業担当時間の合計	91.50	3.05							
薬学科	准教授						化学Ⅰ	9.00	0.30
							薬学数学演習	18.00	0.60
							くすりの歩み	18.00	0.60
							化学Ⅱ	18.00	0.60
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10
							薬物代謝学	18.00	0.60
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05
							衛生薬学実習	◎ 33.75	1.13
授業担当時間の合計	132.75	4.43							

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当たり授業時間 ⁵⁾							
薬学科	准教授						生物学	18.00	0.60							
							遺伝子工学	9.00	0.30							
							生化学Ⅰ	4.50	0.15							
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20							
							総合学習Ⅰ	6.00	0.20							
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15							
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10							
							生化学実習	◎ 33.75	1.13							
							生化学Ⅱ	18.00	0.60							
							基礎生化学	18.00	0.60							
							細菌学	9.00	0.30							
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
							基礎生化学実習	◎ 33.75	1.13							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
							授業担当時間の合計	168.00	5.60							
							薬学科	准教授						薬物治療学Ⅳ	18.00	0.60
総合学習Ⅲ	4.50	0.15														
薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10														
実務実習事前学習Ⅰa	33.75	1.13														
実務実習事前学習Ⅰb	11.25	0.38														
基礎薬学総合演習	3.00	0.10														
一般用医薬品学演習	15.00	0.50														
コミュニケーション演習	7.50	0.25														
食品医薬品相互作用論	18.00	0.60														
薬学総合演習Ⅱ	4.50	0.15														
実務実習事前学習Ⅱa	33.75	1.13														
実務実習事前学習Ⅱb	11.25	0.38														
基礎薬学総合演習	3.00	0.10														
授業担当時間の合計	166.50	5.55														
薬学科	准教授													細胞生物学	12.00	0.40
														生理・薬理学Ⅴ	18.00	0.60
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20							
							薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10							
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
							基礎薬理学実習	◎ 7.50	0.25							
							機能形態学Ⅰ	18.00	0.60							
							薬理学実習	◎ 33.75	1.13							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
							授業担当時間の合計	104.25	3.48							
							薬学科	准教授						総合学習Ⅲ	4.50	0.15
薬学総合演習Ⅰ	1.50	0.05														
実務実習事前学習Ⅰa	11.25	0.38														
実務実習事前学習Ⅰb	33.75	1.13														
基礎薬学総合演習	1.50	0.05														
病院薬学演習	18.00	0.60														
腫瘍治療学	4.50	0.15														
医薬情報学演習	18.00	0.60														
調剤学	18.00	0.60														
薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10														
実務実習事前学習Ⅱa	11.25	0.38														
実務実習事前学習Ⅱb	33.75	1.13														
基礎薬学総合演習	1.50	0.05														
授業担当時間の合計	160.50	5.35														
薬学科	講師						漢方治療学	18.00	0.60							
							生薬学	18.00	0.60							
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20							
							薬学総合演習Ⅰ	4.50	0.15							
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10							
							生薬学実習	◎ 33.75	1.13							
							漢方治療学演習	18.00	0.60							
							薬用植物学	18.00	0.60							
							東洋医薬学	18.00	0.60							
							和漢薬学	18.00	0.60							
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10							
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
授業担当時間の合計	159.75	5.33														

学科 ¹⁾	職名 ²⁾	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目 ³⁾	授業時間 ⁴⁾	年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾
薬学科	講師						キャリア教育	11.25	0.38
							薬学数学	18.00	0.60
							物理学Ⅱ	9.00	0.30
							製剤学	18.00	0.60
							総合学習Ⅲ	4.50	0.15
							薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10
							実務実習事前学習Ⅰc	33.75	1.13
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10
							腫瘍治療学	13.50	0.45
							セーフティマネジメント演習	18.00	0.60
							薬物動態学Ⅱ	18.00	0.60
							薬学総合演習Ⅱ	4.50	0.15
							実務実習事前学習Ⅱc	33.75	1.13
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	191.25	6.38
薬学科	講師						遺伝子工学	9.00	0.30
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20
							薬学総合演習Ⅰ	3.00	0.10
							薬学総合演習Ⅱ	3.00	0.10
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05
							基礎薬理学実習	◎ 33.75	1.13
							生理・薬理学Ⅳ	18.00	0.60
							外書講読Ⅰ	18.00	0.60
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05
							薬理学実習	◎ 33.75	1.13
							授業担当時間の合計	127.50	4.25
							薬学科	講師	
薬学総合演習Ⅰ	1.50	0.05							
基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
無機化学Ⅰ	18.00	0.60							
有機化学Ⅲ	18.00	0.60							
薬学総合演習Ⅱ	1.50	0.05							
薬化学実習	◎ 33.75	1.13							
基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
授業担当時間の合計	81.75	2.73							
薬学科	講師						化学Ⅰ	18.00	0.60
							生化学Ⅰ	9.00	0.30
							総合学習Ⅱ	6.00	0.20
							薬学総合演習Ⅰ	1.50	0.05
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05
							生化学実習	◎ 33.75	1.13
							薬学総合演習Ⅱ	1.50	0.05
							基礎生化学実習	33.75	1.13
							基礎薬学総合演習	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	106.50	3.55
薬学科	講師						情報処理入門	22.50	0.75
							薬学数学演習	18.00	0.60
							総合学習Ⅰ	6.00	0.20
							薬学総合演習Ⅰ	1.50	0.05
							基礎薬学総合演習	3.00	0.10
							分析化学Ⅲ	18.00	0.60
							プレゼンテーション概論	18.00	0.60
							薬学総合演習Ⅱ	1.50	0.05
							分析学実習	◎ 33.75	1.13
基礎薬学総合演習	1.50	0.05							
授業担当時間の合計	123.75	4.13							

- 薬学科（6年制）専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は（兼任学科名）を付記してください。
- 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に（実務）と付記してください。
- 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目（兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む）を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間を時間数を、以下に従ってご記入ください。
 ※講義科目は時間割から計算される実際の時間数（1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間）を記入します。
 ※複数教員で分担している場合は授業回数を分担回数とし、履修者が多いため同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数を乗じます。
 ※実習科目では、同一科目を複数教員（例えば、教授1名と助教、助手2名）が担当していても、常時共同で指導している場合は分担担当としません。
- 「年間で平均した週当り授業時間」には、総授業時間を「30」（授業が実施される1年間の基準週数）で除した値を記入してください。
 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

6 年生の在籍学生数 168 名

5 年生の在籍学生数 72 名

	配属講座など	指導教員数	6 年生 配属学生数	5 年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する 研究室の面積 (m ²)
1	薬化学講座	2	11	5	16	122.0
2	分析学講座	2	13	5	18	122.0
3	衛生薬学講座	2	13	6	19	122.0
4	生薬学講座	2	11	6	17	122.0
5	生化学講座	3	16	4	20	122.0
6	薬理学第 2 講座	2	12	6	18	122.0
7	薬理学第 1 講座	2	9	5	14	122.0
8	臨床薬学第 2 講座	3	15	6	21	122.0
9	臨床薬学第 1 講座	2	18	5	23	122.0
10	臨床薬学第 3 講座	2	13	6	19	122.0
11	薬剤学講座	2	14	5	19	122.0
12	衛生学研究室	1	6	3	9	23.0
13	生物薬学研究室	1	4	2	6	23.0
14	分子生理学研究室	1	3	2	5	23.0
15	基礎薬理学研究室	1	6	3	9	23.0
16	環境保健薬学研究室	1	4	3	7	23.0
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
	合計	29	168	72	240	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生化学講座	職名 教授	氏名 黒川昌彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 免疫学、ウイルス学、生化学Ⅲ、細胞生物学、薬学入門、細菌学、病気を知る、国際保健福祉論など 講義、実習のオンライン化への取り組み		平成29年～ 令和2年～	薬学教育モデル、コアカリキュラムに準じて、教科毎に要点をまとめたPower pointのスライドと板書で講義を行っている。学習した内容が、アウトプットできるよう、講義内容に関連した問題を次回講義まで口頭質問している。いずれの科目も学生が行なう授業評価アンケートおよび自由記述を参考にして、学生から指摘された点を理解し授業改善に努めている。 コロナ禍の中、オンライン講義が実施された。対面講義の時は、黒板に板書していたが、書画カメラを使用することで、板書と変わらない状況として画面上でも見やすくした。また、講義中、オンライン講義に参加している学生を指名して、質問に答えさせることで、自宅学習でも緊張感を保てるよう工夫した。また、学生実習を行うにあたり、一部学生が大学に登校できない状態であった。そこで当該学生とwebカメラを通じて、実習をしている他学生とのコミュニケーションをとることで、実習に参加させた。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学領域の生化学 第2版、廣川書店、p285-314。 スタンダード薬学シリーズⅡ、日本薬学会編 生物系薬学、Ⅳ.薬理・病態・薬物療法(4)、東京化学同人、SB014-16、p81-92。 薬系 免疫学 改訂第3版、南江堂、p115-128 薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学 第4版、廣川書店、p195、204-220、349-352、358-354、383-385。廣川書店 臨床薬学テキストシリーズ、薬理・病態・薬物治療、『呼吸器/免疫・炎症・アレルギー/骨・関節』監修：乾 賢一、中山書店、p87-116 コンパンス分子生物学 改訂第3版、南江堂、p125-129、p140-143。		2017年1月30日発行 2017年6月1日発行 2018年2月5日発行 2018年3月31日発行 2020年9月26日発行 2021年3月1日発行	第12章遺伝子工学の基礎を担当 SB014-16、ヘルペスウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、インフルエンザウイルス感染症の治療薬の薬理、感染経路、予防法および病態、薬物治療を担当 8 アレルギーを担当 ウイルスの分類、RNAウイルス、抗インフルエンザウイルス薬、ウイルス性肝炎の治療薬、その他のウイルス薬、感染症に用いられる生物学的製剤を担当 上気道炎、インフルエンザ、肺結核、百日咳の治療薬について概説 5章遺伝子工学を担当
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会		平成29年～	九州保健福祉大学FD研修会毎回参加し、授業改善などについて議論した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 抗インフルエンザウイルス薬	単著	2017年	化学療法の領域、1月号、33、No. 1、39-47
(論文) Effects of orally administered lactoferrin and lactoperoxidase on symptoms of the common cold.	共著	2018年	Int. J. Health Sci., 12, 44-50.
(論文) Effects of lactoferrin on infectious diseases in Japanese summer: A randomized, double-blinded, placebo-controlled trial.	共著	2020年	Journal of microbiology, immunology, and infection. Feb; 53(1), 79-86.
(論文) Brazilian propolis (AF-08) inhibits collagen-induced platelet aggregation without affecting blood coagulation.	共著	2021年	J. Natural Med., 75(4), 975-984.
(論文) Alleviation of collagen-induced arthritis through cytokine-modulatory activity of Brazilian propolis AF-08 in mice.	共著	2021年	World Journal of Biology Pharmacy and Health Sciences, 6(1), 1-9.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Fcγ3活性化および制御性T細胞増加作用を有する食品成分および漢方薬の探索		2021年3月	日本薬学会第141年会
(演題名) ブラジル産プロポリス(AF-08)と成分フラボノイドの血栓症に対する有効性評価 —血小板凝集と血液凝固に対する抑制作用の検討—		2021年3月	日本薬学会第141年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
日向市議員研修会、2020年11月11日	コロナ禍における今後の市政の在り方を考える—コロナ禍の現状—		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 学会および社会における主な活動は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生薬学講座	職名 教授	氏名 大塚功
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 天然医薬品化学1、天然医薬品化学2、応用機器分析学、生物有機化学、漢方治療学演習、漢方治療学、東洋医薬学、和漢薬学		平成29年～	薬学教育モデル、コアカリキュラムに準じて、教科毎に要点をまとめたPower pointのスライド、または確認用プリントを作成している。学習した内容が、アウトプットできるよう、講義内容に関連した問題を宿題として課し、次回講義で解説を行っている。いずれの科目も学生が行なう授業評価アンケートおよび自由記述を参考にして、学生から指摘された点を理解し授業改善に努めている。
講義、実習のオンライン化への取り組み		令和2年～	コロナ禍の中、オンライン講義が実施された。対面講義の時は、黒板に板書していたが、書画カメラを使用することで、板書と変わらない状況として画面上でも見やすくした。また、講義中、オンライン講義に参加している学生を指名して、質問に答えさせることで、自宅学習でも緊張感を保てるよう工夫した。また、学生実習を行うにあたり、一部学生が大学に登校できない状態であった。そこで当該学生とwebカメラを通じて、実習をしている他学生とのコミュニケーションをとることで、実習に参加させた。
2 作成した教科書、教材、参考書 医学・歯学・薬学系博物館事典		令和3年4月	「九州保健福祉大学薬用植物園の紹介」を担当
授業用に作成したプリント資料		平成29年～	各授業の内容をまとめたスライド資料、確認用プリント
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会		平成29年～	九州保健福祉大学FD研修へ毎回参加し、授業改善などについて議論した。
第3回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ		平成29年8月	40歳代薬学教員によるこれからの薬学教育に求められる課題、教育方法、カリキュラムの作成について討議し、所定の課程を全て修了した。
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) Photoreactive Biomacromolecules: Installation of Photoreactive Units and Applications for Analyzing Biological Interfaces.	共著	2017年8月	Photoaffinity Labeling for Structural Probing Within Protein.
(論文) Attempt to Synthesis of Glycosidic Formation by L-Fucose and 3-OH of D-Glucosamine.	共著	2017年3月	J. KUHW., 18, 45 - 48 (2017).
(論文) Inhibitory Activity of Kaki Calyx Extracts and Their Triterpene Compounds on Recombinant Hepatitis C virus NS3/4A Protease.	共著	2018年3月	J. KUHW., 19, 67-72 (2018).
(論文) Effects of crushed Schisandra Fruit on the content of lignans in Kampo decoction.	共著	2019年2月	J. Nat. Med., 73(2), 381-387 (2019).
(論文) Effect of heating on the quality of clarified butter, called ghee, in Ayurveda.	共著	2020年12月	Milk Science, 69, 146 - 154 (2020).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 靱殻マルチがミシマサイコ(Bupleurum falcatum L.)の発芽及び収穫量へ与える影響		2021年5月	第56回植物園協会総会
(演題名) 痔瘻治療系Kshara Sutraの結紮がラット背中皮膚及び痔瘻モデル組織に与える影響		2021年9月	第67回日本生薬学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
平成29年4月～	日本生薬学会代議員		
平成30年4月～令和2年3月	日本薬学会九州支部幹事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬理学第二講座	職名 教授	氏名 大倉正道
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬理学系講義等における教育方法の工夫（授業評価等を含む）		2018年4月～現在	講義内容の定着を図るため、重要な内容は板書・強調・反復した。暗記すべき薬物名等はゴロも提示して記憶の手助けを行い、やる気の維持に努めた。また講義時に確認問題を配布し、定着度の確認を行った。この教育方法は、学期末の授業評価において高い評価を得ている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2021年度 九州保健福祉大学 FD/SD研修会		2021年9月8日	「入学前教育の方針と遠隔教育の活用案」について講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Fast, cell-resolution, contiguous-wide two-photon imaging to reveal functional network architectures across multi-modal cortical areas.	共著	2021年6月	Neuron 109(11) 1810-1824. e9
(論文) Distinct Mechanisms of Over-Representation of Landmarks and Rewards in the Hippocampus.	共著	2020年7月	Cell Reports 32(1):107864(1) 107864-107864
(論文) Orchestrated ensemble activities constitute a hippocampal memory engram.	共著	2019年6月	Nature Communications 10(1) 2637-2637
(論文) ELKS/voltage-dependent Ca ²⁺ channel-β subunit module regulates polarized Ca ²⁺ influx in pancreatic β cells.	共著	2019年1月	Cell Reports 26(5) 1213-1226
(論文) Super-wide-field two-photon imaging with a micro-optical device moving in post-objective space.	共著	2018年9月	Nature Communications 9(1) 3550-3550
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 高い撮像速度と大きな光学的不変量を有した2光子励起顕微鏡 FASHIO-2PMIによって観測された単一神経活動の機能的ネットワーク		2021年7月	第44回日本神経科学大会
(演題名) 海馬CA1における空間と事象を表現する細胞群の同期活動		2021年7月	第44回日本神経科学大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年4月～現在	薬剤師国家試験問題検討委員会薬理部会委員		
2020年7月～現在	特別研究員等審査会専門委員（書面審査担当）		
2020年4月～現在	聖心ウルスラ学園高等学校 看護専攻科 非常勤講師		
2020年11月	令和2年度 宮崎県高等学校教育研究会理科部会（生物県北地区会）「蛍光タンパク質を用いた細胞のイメージング（講義）」「蛍光タンパク質や蛍光Ca ²⁺ プローブタンパク質を発現させた培養細胞の蛍光顕微鏡下でのイメージング（体験実習講師）」		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第2講座	職名 教授	氏名 高村徳人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬物治療学Ⅴ		2017年4月～現在	薬のADMEを常に意識させて薬物治療を考えさせる講義を行っている。
物理化学Ⅱ		2017年4月～現在	実験科学により導き出された学問であることを常に意識させる講義を行っている。この分野の研究者の偉大さも伝えている。
2 作成した教科書、教材、参考書 ADME人形（手作り→2021.11発売）		2017年4月～現在	薬のADMEを説明するためのパペット人形
薬物治療学（毎年改定）		2017年4月～現在	分担執筆：関節リウマチ、変形性関節症
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 近畿大学大学院特別講義		2021年11月	（講演）ADME人形を用いた服薬指導が薬剤師を大飛躍させる理由およびADME人形を用いた自学自習法についてウェブ講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬剤師のためのフィジカルアセスメントおよびADME人形による服薬指導などに関する研修会および講演		2017年4月～現在	延岡西臼杵郡薬剤師会において実技指導を行った（各年1回）。その他として期間内に、ADME人形の講演を鹿児島2回・大分1回、宮崎1回の講演を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）薬のうごきを「みえる化」する一目で伝わるADME	単著	2020年8月	南山堂出版
（著書）薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント(改訂第2版)：副作用症状を見抜くためのポイント	共著	2021年4月	南江堂出版
（論文）Establishment of a new initial dose plan for vancomycin using the generalized linear mixed model	共著	2017年4月	Theoretical Biology and Medical Modelling volume 14, Article number: 9
（論文）尿毒症物質の血液透析除去率の向上を目指したタンパク結合阻害に関する基礎的検討	共著	2020年3月	九州保健福祉大学研究紀要（第21巻）
（論文）ヒト血清アルブミンのサイトIおよびIIに結合する薬物に対する長鎖脂肪酸と中鎖脂肪酸の影響	共著	2022年3月	九州保健福祉大学研究紀要（第23巻）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）眼房水中アルブミンに結合するジクロフェナク点眼薬の効果的な投与方法（第2報）		2021年9月	第54回日本薬剤師会学術大会
（演題名）ADME人形（パペット）を用いた服薬指導とそれ以外の活用法と全世界への普及戦略		2022年3月	超異分野学会 東京大会2022
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～現在	宮崎大学医学部医学科非常勤講師		
2017年5月～現在	日本老年薬学会理事		
2017年5月～現在	日本シミュレーション医療教育学会		
2017年6月～現在	延岡市西臼杵郡薬剤師会理事		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第三講座	職名 教授	氏名 鈴木彰人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (基礎科目) キャリア教育 (専門教育科目) 薬局方概論、薬物治療学Ⅵ、栄養管理学、治験コーディネーター論		2017年4月～現在 (毎年度) 2017年4月～現在 (毎年度)	課題レポート(論述)の正しい書き方の修得を目的に受講者全員に個別添削指導を行った。 基本事項の理解を深め応用力を養うことを目的に、演習問題を作成して受講者に配信し、実践的な臨床能力向上に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書 (教科書) 臨床製剤学 改訂第4版 南江堂 (教科書) 治験薬学 改訂第2版 南江堂 (教科書) 臨床製剤学 改訂第5版 南江堂 (教材) 実務実習事前学習「模擬病院薬局実習」実習書(毎年度改訂) 臨床薬学第三講座		2017年3月 2020年1月 2022年3月 2017年～2021年/ 各年4月	執筆: 第Ⅱ章 医薬品の開発と育薬、第Ⅲ章-第15項 日本薬局方一般試験法 編集、執筆: 第5章 病院における治験業務 執筆: 第Ⅱ章 医薬品の開発と品質・安全性の確保、第Ⅲ章-第15項 日本薬局方一般試験法 執筆・説明用資料作成: 実務実習事前学習 I c・II c で修得すべき技能・態度(調剤、調剤薬鑑査、持参薬管理、院内製剤)及び実習の心得
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (演題名) 薬剤師が臨床栄養の場で活躍するために～栄養教育の現状と課題～ 「薬学教育における臨床栄養教育の取り組み・現状」～大学・臨床教育の立場から～		2017年11月3日	第27回日本医療薬学会年会シンポジウム: 教育現場(薬学部、医学部、栄養学部)及び臨床現場(病院、病院薬剤師会)での臨床栄養教育の現状発表に基づき、総合討論を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 NST専門療法士のスキルアップを目的に実臨床における臨床栄養教育セミナーを実施: 「胃癌患者、大腸癌患者の各症例に基づいた周術期栄養管理」		2018年9月2日	日本臨床栄養代謝学会 教育事業責任者を担当: NST専門療法士資格者(薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士)を対象に卒業教育として臨床栄養教育を立案し、実施した(第22回NST専門療法士スキルアップセミナー)。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Caffeine exhibits synergistic anticancer effect of cisplatin through inhibiting monoubiquitination of FANCD2 in HepG2	共著	2017年8月	Biol. Pharm. Bull. 40, 2005-2009 (2017)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 栄養不良の消化器癌手術患者における抗酸化物質強化栄養剤の及ぼす効果		2021年7月	第36回日本臨床栄養代謝学会学術集会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年9月～現在	九州代謝・栄養研究会幹事		
2012年10月～現在	日本臨床栄養代謝学会九州支部世話人		
2013年7月～現在	日本臨床栄養代謝学会代議員		
2017年7月～現在	宮崎県薬剤師会薬学教育委員会委員		
2018年5月26日、27日	日本TDM学会 第35回学術大会実行委員		
2018年6月16日	日本臨床栄養代謝学会 平成30年度第3回NST専門療法士受験必須セミナーにおいて講師を務めた。		
2021年7月29日	さわやかカレッジ(延岡市教育委員会主催)において市民を対象に健康講座の講師を務めた。		
2021年11月20日	Out of KidZania inのべおか(延岡市共催)において小・中学生を対象に薬剤師の仕事体験イベントを実施した。		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 環境保健薬学	職名 教授	氏名 白崎哲哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2017年4月～ 2017年9月～ 2018年12月 2019年9月～ 2019年12月 2020年4月～ 2020年4月～	基礎学力向上を目指し、1. 現代日本語読解力と表現力向上のための学習内容検討と国語統一試験の作成・実施・検証（年3回）、2. 数学力向上に向けたe-learningシステムの活用・運用方法の開発・改善、3. 薬学専門科目における数学の必要性理解のための工夫、4. エネルギー、波動、電気、原子核物理に関する基礎学力向上、および専門科目との関連の理解に向けたできる限りわかりやすい解説の工夫などについて、毎年改善している。 放射化学・薬品学にて、化学、物理、生物、衛生、医療応用の観点からできるかぎりわかりやすくかみ砕いて解説し、毎年内容と試料の改善をしている。 また、本学には電離放射線を利用できる管理区域・施設がないため、電離放射線に関する実習を行っていなかった。そこで、簡易測定器と天然放射線源を用いて、電離放射線の測定簡易実習を開始した。 放射線簡易測定器のグレードアップと天然放射線測定キットを導入し、放射線測定簡易実習を改善した。 数学力向上のため、前期のみ開講していた薬学数学を後期も開講し、数学力の低い学生に対する教育の充実を図っている。 放射線スペクトロメーターを導入し、放射線測定簡易実習を改善した。 オンラインによる授業、セミナー、および試験前等の質問対応などのために環境を整備し、クリアな音声と映像による授業、質問対応を行っている。 有志教員とともに、オンラインによる国試対策教材を導入し、その活用・運用方法等の検討と実施により、コロナ禍による急な学生の学習機会喪失に対応した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月～	各種授業プリントおよび放射線簡易測定資料
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年4月 2019年8月 2020年9月	「放射線と放射能に対する理解の向上」 教育の質の転換に繋がる優れた取り組み支援 報告会 「放射線と放射能に対する理解の向上」 教育の質の転換に繋がる優れた取り組み支援 報告会 「薬学生の放射線・核医学に対する理解力向上」 教育の質の転換に繋がる優れた取り組み支援 報告会
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年4月～ 2018年11月 2019年12月 2021年11月	毎年開催される本学のFD研修会に毎回参加し、授業改善などについて議論した。 「大学模擬講義 薬学系」 福岡県立福岡中央高等学校 「なんで物理を学ぶのだろう？」 福岡県立中間高等学校 「環境と健康」 のべおか市民大学院
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Direct Potentiation of Capsaicin Current by Histamine and Its Effect by Suplatast on Rat Trigeminal Ganglia Neurons.	共著	2018年8月	Pharmacology, vol.102 No. 1-2
（論文）Effects of tipepidine on MK-801-induced cognitive impairment in mice.	共著	2019年5月	Brain Res. vol.1710
（論文）Suplatast Tosilate Inhibited Nicotinic Single-Channel Currents in the Paratracheal Ganglia Neurons of Rats.	共著	2020年12月	Austin J Pharmacol Ther Vol. 8 No. 2
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～2022年3月	日本薬理学会評議員		
2017年4月～2022年3月	日本生理学会評議員		
2022年2月24日～3月9日	地域貢献事業「健康サポートウォーキングコース・プログラム開発」ポスター発表		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 分子生理学研究室	職名 教授	氏名 蒲生修治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 おさらいテストの実施		2017年度～2021年度	講義のポイントを示すとともに、理解度のフィードバックを行う目的で、各回の講義の最後におさらいテストを実施した。
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会 (FDを含む)		2017年度～2021年度	九州保健福祉大学FD研修会に参加し、他学科を含む多数の教員と意見を交わすことで、自らの講義の改善を図っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Diabetes mellitus induces hyperreactivity of 5-hydroxytryptamine (5-HT)-induced constriction in human internal thoracic artery and is associated with increase in the membrane protein level of 5-HT _{2A} receptor	共著	2018年4月	Biol Pharm Bull, 41, 1-5
(論文) Differences in the response to periarterial nerve stimulation or exogenous noradrenaline infusion in the mesenteric vascular bed with the intestinal tract harvested from commonly used rat models of hypertension	共著	2019年5月	Clin Exp Pharmacol Physiol, 46, 427-434
(著書) 運動機能・認知機能改善食品の開発 第V編 第1章 脂肪酸(DHA, EPA, アラキドン酸)	共著	2020年5月	シーエムシー出版, 225-238
(論文) Effects of M-1, a major metabolite of sarpogrelate, on 5-HT-induced constriction of isolated human internal thoracic artery	共著	2020年9月	Biol Pharm Bull, 43, 1979-1982
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2008年4月～現在	日本脂質栄養学会会員(2009年12月より評議員)		
2010年4月～現在	日本薬学会(2021年度 九州山口支部大学幹事)		
2011年4月～現在	日本薬理学会会員(2018年4月より学術評議員、2020年1月より薬理学エドゥケーター)		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第一講座	職名 教授	氏名 徳永仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (専任科目) 外書講読Ⅲ, 薬物治療学Ⅲ, 医薬情報学 (オムパス科目) 医薬情報学演習, コミュニケーション演習, 実務実習事前学習〔模擬保険薬局・ベッドサイド実習〕		2017年4月～ 2017年4月～	毎回の講義開始前に前回の講義内容の確認試験を行い、授業内容の理解度を確認している。 各教員と互いに連携をとりながら講義・演習・実習内容の確認を行い、常に改善に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・処方管理学(編者, 南山堂) ・患者ロボットを用いた代表的8疾患シナリオ動画(臨床薬学第一講座ホームページ内公開)		2017年4月 2020年8月	実症例から処方内容に焦点をあてた書籍を発行 疾患の実際のシミュレーションの様態を動画化
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・薬剤師のためのフィジカルアセスメント研修会・実務実習などに関する講演 ・薬学シミュレーションの教育効果などに関する発表		2017年4月～ 2017年4月～	各地区薬剤師会・企業からの講師依頼で評価対象年度において計46回の講演を行った。 学会・シンポジウム・ワークショップ・パネルディスカッションにおいて評価対象年度に計54回の発表を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・eラーニング教材「患者味方とインターネットを活用した医療における身体学的評価法を学ぶためのeラーニングシステム」 ・臨床薬学第一講座ホームページ「アノグ教材からアクティブラーニング・シミュレーション医療教育のコンテンツを供するデジタル教材」		2017年10月 2021年11月	第14回日本eラーニングアワード文部科学大臣賞受賞 第18回日本eラーニングアワード全国交流会会長賞受賞
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムにおいて提示された代表的8疾患に関するシミュレーション動画	共著	2021年9月	日本シミュレーション医療教育学会雑誌(第9巻第1号)
(論文)薬学教育モデル・コアカリキュラムに提示された代表的8疾患への対応を志向したシミュレーション教育	共著	2021年1月	薬学教育(第4巻第1号)
(論文)薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した代表的8疾患に関するシミュレーション教材の開発	共著	2020年9月	日本シミュレーション医療教育学会雑誌(第8巻第1号)
(論文)患者シミュレータを活用するためのWebフィジカルアセスメント教室の開設	共著	2018年9月	日本シミュレーション医療教育学会雑誌(第6巻第1号)
(論文)わが国の薬学部における臨床技能教育の現状(続報)	共著	2017年9月	日本シミュレーション医療教育学会雑誌(第5巻第1号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)薬学教育モデル・コアカリキュラム提示代表的8疾患に関するシミュレーション動画の制作と薬学生による評価		2021年10月	第9回日本シミュレーション医療教育学会学術大会
(演題名)服薬アドヒアランス向上を目的としたアニメーションの制作(第3報)		2021年10月	第31回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2009年4月～現在	日本医療薬学会代議員		
2017年4月～現在	日本在宅薬学会総務財務委員・編集委員(編集副委員長)		
2019年4月～2021年3月	日本薬学会九州支部幹事		
2021年4月～現在	延岡市西臼杵郡薬剤師会監事		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名	職名 教授	氏名 比佐博彰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) パートナー機能形態学改訂第3版(第10章)	共著	2018年12月	南江堂
(著書) 新しい疾患薬理学(第5章)	共著	2018年3月	南江堂
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Google driveを利用した自己学習支援システムの構築		2021年8月	第6回日本薬学教育学会大会
(演題名) 腎虚血再灌流による虚血性腎不全発症に関与した線維化及び炎症の経時的変動		2017年12月	第34回日本薬学会九州支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1980年4月～現在	日本薬理学会員(評議員, 1989年4月～現在)		
1993年4月～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 衛生薬学講座	教授	木村 博昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 公衆衛生学・食品栄養学		2019年4月～	学生が理解しやすいように画像の多いスライドを利用し、穴埋め形式で、講義を聴かせるように工夫した。また、講義期間を半分に分割して到達度テストや演習テストを行い、学生が毎週勉強に取り組むよう促した。
薬学英語I		2020年4月～	9年の海外経験を活かし、薬局や病院での英会話の練習を行わせた。さらに絵から学生に会話のシナリオを考えさせ、創造力を身につけるように促した。また、人前で英語での会話をさせて、度胸をつけるように促した。
先端医療学		2021年4月～	実務実習後の5年生に、国家試験にも出題されそうなバイオ医薬品を中心に講義した後、グループで選択したバイオ医薬品について調査させ、別グループへのプレゼンをさせた。他人へ学習したことを説明させ、知識が定着するように図った。
薬学総合演習		2020年4月～	6年生を成績でグループを分け、中位・下位の学生にオンラインで理論問題の演習課題を与え、文章を読んで考える訓練をするように促した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
該当無し			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
該当無し			
4 その他教育活動上特記すべき事項 宮崎県立都城泉ヶ丘高校への出前講座		2021年11月11日	九州地区の薬学部代表として出前講義を行い、免疫の基礎から自身の研究内容の話をし、薬の開発に興味を持たせるように講義した。また、薬学部で学ぶことや、薬学部卒業後の多岐にわたる就職先について説明した。
FD研修会		2019年4月～	九州保健福祉大学のFD研修会に参加し、講義の改善やシラバスの書き方などについて議論・学習した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Human Leukocyte Antigens and Biomarkers in Type 1 Diabetes Mellitus Induced by Immune-	共著	2022年2月	Endocrinology and Metabolism 37(1) 84-95
(論文) Crucial role of NLRP3 inflammasome in a murine model of Kawasaki disease.	共著	2020年1月	Journal of Molecular and Cellular Cardiology 138 105-106
(論文) Adeno-associated Virus Vector-mediated Interleukin-10 Induction Prevents Vascular	共著	2018年12月	Scientific Reports 8(1) 7601
(論文) Saturated Fatty Acids Undergo Intracellular Crystallization and Activate the NLRP3 Inflammasome	共著	2018年4月	Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology 38(4)
(論文) Interaction of Neutrophils with Macrophages Promotes IL-1 β Maturation and Contributes to	共著	2017年11月	The Journal of Immunology 199(9) 3306-3315
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
該当無し			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在		日本薬学会雑誌編集委員	
2020年4月～現在		日本薬学会九州支部幹事	

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 衛生学研究室	職名 特任教授	氏名 松野 康二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		毎年	薬学部薬学科における担当科目(衛生薬学分野:健康と環境)において、基礎学力養成および国家試験対策の両面から学生の教育にあたっている。
2 作成した教科書、教材、参考書		毎年	九州保健福祉大学薬学部薬学科 衛生薬学実習書 衛生薬学領域における「化学物質の生体影響」分野の国試問題集(講義資料)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)スタンダード薬学シリーズⅡ 9 薬学演習Ⅲ, 薬学総論Ⅲ・衛生薬学アクティブラーニング付	共著	2020年11月	東京化学同人
(論文) Direct-Injection Electron Ionization-Mass Spectrometry Metabolomics Method for Analyzing Blueberry Leaf Metabolites That Inhibit Adult T-cell Leukemia Proliferation	共著	2019年1月	Planta Medica (第85号第1巻)
(論文) Determination of three triterpenic acids in dried rosemary by HPLC-fluorescence detection with DIB-CI	共著	2018年6月	XVIIIth International Symposium on Luminescence Spectrometry
(論文) Establishment of a Direct-Injection Electron Ionization-Mass Spectrometry Metabolomics Method and Its Application to Lichen Profiling	共著	2017年6月	Anal Chem (第89号第12号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
日本薬学会会員			

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬化学講座	職名 教授	氏名 山崎 哲郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 1) オンライン授業		2020年5月	様々なコンピュータソフトを用いることによる フリーズを避けるためOHPを用いたオンライン授業 を行った。 日本に入国できない韓国からの留学生に対して はオンラインで、国内にいる学生に対しては対 面によるハイブリッド授業をOHPを用いて行った。
2) ハイブリッド授業		2020年10月～ 12月	
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年4月	1年次演習用に化合物構造暗記用カードを作成 毎年、授業資料及び演習問題のブラッシュアップ を行っている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			他の教員の講義を参観して、自分の講義に役立て た。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
特になし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
特になし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年9月12日	延岡星雲高校模擬実習		
2018年1月24日	延岡高校模擬実習		
2018年11月4日	第13回有機化学系強化担当委員会議実施副委員長		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生物薬学研究室	職名 教授	氏名 山本 隆一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月 2021年4月 2021年4月	生理薬理3 講義教材 生理薬理5 講義教材 薬理学実習教材
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Diabetes mellitus induces hyperreactivity of 5-hydroxytryptamine (5-HT)-induced constriction in human internal thoracic artery and is associated with increase in the membrane protein level of 5-HT _{2A} receptor	共著	2018年4月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 41 (2018) 1-5
Differences in the response to periarterial nerve stimulation or exogenous noradrenaline infusion in the mesenteric vascular bed with the intestinal tract harvested from commonly used rat models of hypertension.	共著	2019年9月	Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology, 46 (5), pp. 427-434.
Effects of M-1, a major metabolite of sarpogrelate, on 5-HT-induced constriction of isolated human internal thoracic artery	共著	2020年9月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 43, 1979-1982
Brazilian propolis (AF-08) inhibits collagen-induced platelet aggregation without affecting blood coagulation.	共著	2021年5月	Journal of Natural Medicines https://doi.org/10.1007/s11418-021-01518-w
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒト冠動脈バイパス内胸動脈グラフトのれん縮を予防するパパペリンの至適濃度について		2022年3月	日本薬学会 第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1988-	日本薬理学会学術評議員		
2006/02- 2010/03	日本薬学会代議員		
2007-	宮崎県衛生環境研究所調査研究評価員委員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬剤学講座	職名 教授	氏名 横山祥子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年4月1日～ 2022年3月 2019年4月～	物理化学、薬剤学他の講義、演習を通して学生に理解させた。 コロナが広まってからは、オンラインでの講義を行い、そのやり方に日々工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年2月	教科書 パートナー薬剤学 南江堂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			他の教員の講義を参観して、自分の講義の参考にした。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) ガングリオシドGM3単分子膜中へのカフェ酸エステル類の分布と作用.	共著	2017年3月	J. Kyushu Univ. Health and Welfare, 18, (2017), 63-66.
(論文) ガングリオシドGD3 (GD3)単分子膜およびリン脂質/GD3混合単分子膜中へのカフェ酸の分布と作用.	共著	2019年3月	J. Kyushu Univ. Health and Welfare, 20, (2019), 75-78.
(論文) Synthesis and In Vitro Assessment of pH-Sensitive Human Serum Albumin Conjugates of Pirarubicin.	共著	2021年2月	Pharmaceuticals 14, (2021), 22.
(論文) 果糖の過剰摂取は老化につながる?	共著	2021年3月	J. Kyushu Univ. Health and Welfare, 22, (2021), 83-87.
(著書) パートナー薬剤学	共著	2022年2月	南江堂
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 酸性環境応答性を有するアルブミン結合型高分子化抗がん剤の設計と評価		2020年3月	日本薬学会140年会
(演題名) 酸性環境応答性を有するアルブミン結合型抗がん剤の作製と評価		2021年3月	日本薬学会141年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2021年3月	材料技術研究協会理事(理事会 年4回)		
2017年4月～現在	Material Technology 編集委員(年2回の会と随時論文査読)		
2017年4月～現在	日本薬学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	講座名	職名	氏名
九州保健福祉大学	臨床薬学第2講座	准教授	緒方賢次
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (専門教育科目) 基礎薬物動態学、薬物治療学Ⅰ、薬物動態学Ⅰ (専門教育科目) 一般用医薬品学		2017年4月～現在 2021年4月～現在	単元毎の練習問題を学生相互に相談しながら解くことによって、理解力の向上を図っている。 消費者に適した医薬品の選択について、実地経験に基づく視点を交えて授業を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 (参考書) 処方管理学 南山堂 (参考書) 薬物治療学 改訂7版 南山堂 (参考書) わかりやすい薬物動態計算問題の解き方 ネオメディカル (参考書) 薬物治療学 改訂8版 南山堂 (参考書) 薬物治療学 改訂9版 南山堂 (参考書) 薬物治療学 改訂10版 南山堂 (参考書) 薬物治療学 改訂11版 南山堂		2017年4月 2018年3月 2019年3月 2019年3月 2020年3月 2021年3月 2022年3月	分担執筆：case3心房細動、case13骨粗鬆症 分担執筆：骨粗鬆症、骨軟化症 分担執筆：15 非線形薬物の消失速度の計算、16 平均滞留時間と線形1-コンパートメントモデルとの対応 分担執筆：骨粗鬆症、骨軟化症 分担執筆：骨粗鬆症、骨軟化症 分担執筆：骨粗鬆症、骨軟化症 分担執筆：骨粗鬆症、骨軟化症
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 注射薬の無菌調製研修会の実施		2017年4月～2021年3月	宮崎県薬剤師会や地域薬剤師会において、注射薬の混合操作に関する講演・実技指導を行った。各年2回。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 尿毒症物質の血液透析除去率の向上を目指したタンパク結合阻害に関する基礎的検討。	共著	2020年3月	九州保健福祉大学研究紀要(第21巻)
(論文) Impact of green tea intake on the pharmacokinetics of celiprolol in healthy subjects	共著	2021年3月	Int J Clin Pharmacol Ther, vol. 59
(論文) ヒト血清アルブミンのサイトⅠおよびⅡに結合する薬物に対する長鎖脂肪酸と中鎖脂肪酸の影響	共著	2022年3月	九州保健福祉大学研究紀要(第23巻)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 眼房水中アルブミンに結合するジクロフェナク点眼薬の効果的な投与方法(第2報)		2021年9月	第54回日本薬剤師会学術大会
(演題名) 服薬アドヒアランス向上を目的としたアニメーションの制作(第2報)		2021年10月	第31回日本医療薬学会年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生物薬学研究室	職名 准教授	氏名 鳥取部 直子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年4月～	リメディアル教育に携わり、主に理科系作文法での講義や統一試験(国語)の作問と運営を行った。基礎機能形態学、QOLと人間の尊厳、キャリア教育、応用薬理学、基礎薬学総合演習、薬学総合演習を担当し、2020年実施の九州保健福祉大学学生アンケートによる授業評価において優秀と評価され表彰された。
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2020年4月～2021年3月 2017年4月～	2020年実施の九州保健福祉大学学生アンケートによる授業評価において優秀と評価され表彰された。 九州保健福祉大学内のFDに毎年参加し、担当講義のさらなる改善に向け対応している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Diabetes mellitus induces hyperreactivity of 5-hydroxytryptamine (5-HT)-induced constriction in human internal thoracic artery and is associated with increase in the membrane protein level of 5-HT _{2A} receptor		共著	2018年4月 Biological and Pharmaceutical Bulletin, 41 (2018) 1-5
(論文) Effects of M-1, a major metabolite of sarpogrelate, on 5-HT-induced constriction of isolated human internal thoracic artery		共著	2020年9月 Biological and Pharmaceutical Bulletin, 43, 1979-1982
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Google driveを利用した自己学習支援システムの構築		2021年8月	第6回日本薬学教育学会大会
(演題名) ヒト冠動脈バイパス内胸動脈グラフトのれん縮を予防するパパペリンの至適濃度について		2022年3月	日本薬学会 第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
1997年4月～現在	日本薬理学会員(評議員, 2009年4月～現在)		
1999年4月～現在	日本薬学会会員		
2005年4月～現在	日本心脈管作動物質学会会員		

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 分析学講座	職名 准教授	氏名 田原佳代子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年4月～現在	授業評価を参考に演習を多く取り入れるようにし、またその日の講義内容の理解度を学生自身が復習の際に確認できるよう演習問題も配布し、次週に解説を行っている。また、実習では、グループ討議を取り入れ、実験に要する時間以上に得られたデータの解釈と理解に時間をかけるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年4月～現在	採用している教科書では不十分な内容を、オリジナルの図を入れた資料を作成して補うようにし、また演習問題を学習教材として配布した。なお、配布資料は、授業評価を参考に毎年改定し、改善をはかった。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2018年3月	地域連携早期体験プログラムにおいて、事前マナー教育を取り入れた成果について発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018年～2021年	教育に関する学内FDには欠かさず参加し、また自己研鑽として薬学教育系の学会にも参加した。一人で、講座配属学生7～8人分の実務実習の日報を一人で毎週欠かさずチェックし、丁寧にコメントを記載した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 電気化学的手法によるフェノール誘導体からの求電子性化合物の生成		2020年3月	日本薬学会140年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年11月～現在	宮崎県公害審査会委員		
1998年2月～現在	日本薬学会会員		
2002年2月～現在	日本分析化学会会員		
2010年8月～現在	日本癌学会会員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬剤学講座	職名 准教授	氏名 堤敏彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年4月	現在、1年生に理科系作文法Ⅰ、2年生に薬剤学Ⅰ及び外書講読Ⅱ、4年生に薬学英語Ⅰの講義を、大学院では応用薬剤学特論、医療薬学基礎演習Ⅰを担当している。チューターとして、一人一人に親身に対応し、共に問題を解決し意欲的に学生生活を送ることができるよう努めた。授業においてはまとめプリントを作成し、要点を示し、単元ごとに国家試験の過去問を解く事で理解度を高め、必要な知識が定着するように改善した。
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会			九州保健福祉大学FD研修会へ参加し、教育手法について議論し、講義の改善に取り入れている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Altered plasma levels of lysophospholipids in response to adrenalectomy of rats	共著	2021年10月	Elsevier, Prostaglandins Other Lipid Mediat. 156, 106579
(論文) Identification of human glycerophosphodiesterase 3 as an ecto phospholipase C that converts the G protein-coupled receptor 55 agonist lysophosphatidylinositol to bioactive monoacylglycerols in cultured mammalian cells	共著	2020年9月	Elsevier, Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol lipids 1865, 158761
(論文) A low level of lysophosphatidic acid in human gingival crevicular fluid from patients with periodontitis due to high soluble lysophospholipase activity: Its potential protective role on alveolar bone loss by periodontitis	共著	2020年7月	Elsevier, Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol lipids 1865, 158698
(論文) Addition of high load of lysophosphatidic acid to standard and high-fat chows causes no significant changes of its circulating and peripheral tissue levels but affects body weight and visceral fat mass of mice	共著	2018年11, 12月	Wiley, BioFactors 44, 548-557
(論文) Peripheral tissue levels and molecular species compositions of N-acyl-phosphatidylethanolamine and its metabolites in mice lacking N-acyl-phosphatidylethanolamine-specific phospholipase D	共著	2017年12月	Oxford Academic, J Biochem 162, 449-458
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 副腎摘出ラットでは血中リゾホスファチジン酸の分解は抑制されている		2021年10月	第60回日本薬学会中国四国支部学術大会
(演題名) ラット血中でのリゾホスファチジン酸の分解は副腎皮質ホルモンにより制御されている		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～2022年3月		日本薬学会会員	
2017年4月～2022年3月		日本生化学会会員	
2017年4月～2022年3月		日本脂質生化学会会員	
2022年2月25日～2022年3月9日		研究経費助成「リゾ脂質メディエーターを産生するグリセロホスホジエステラーゼの発現と機能解析」ポスター展示(学内およびイオン延岡店)	

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 衛生薬学講座	職名 准教授	氏名 甲斐久博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 2018年度授業アンケートによる評価 1年生を対象とした薬学数学演習の提案と実施		2019年8月30日 2021年4月12日	薬学科の学生アンケートによる授業評価で表彰された。 薬学学習に不可欠な計算演習の講義を担当した。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学領域の食品衛生化学 第3版 (廣川書店) 薬の生体内運命 改訂8版 (ネオメディカル)		2020年3月10日 2019年3月16日	食中毒の章について、構造的・表を効果的に用いて執筆した。 代謝の章について、図表を効果的に用いて執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 令和3年度 高大連携協議会		2022年10月6日	薬学部入学が早期に決まった高校生は、入学前までにどんな勉強・生活をすればよいか発表した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Effective Utilization of Vaccinium virgatum Aiton Stems as Functional Materials: Major Constituent Analysis and Bioactivity Evaluation	共著	2022年2月	Plants (Basel) (第11巻)
(論文) Brazilian propolis (AF-08) inhibits collagen-induced platelet aggregation without affecting blood coagulation	共著	2021年9月	J Nat Med (第75巻第4号)
(論文) メタボロミクスを基軸とした天然素材の薬理活性予測	単著	2020年10月	薬学雑誌 (第140巻第10号)
(論文) Direct-Injection Electron Ionization-Mass Spectrometry Metabolomics Method for Analyzing Blueberry Leaf Metabolites That Inhibit Adult T-cell Leukemia Proliferation	共著	2019年1月	Planta Medica (第85号第1巻)
(論文) Establishment of a Direct-Injection Electron Ionization-Mass Spectrometry Metabolomics Method and Its Application to Lichen Profiling	共著	2017年6月	Anal Chem (第89号第12号)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
芍薬の薬理活性予測システム実現を目指したNMRメタボロミクスの構築		2022年・3月	日本薬学会第142年会
DI-EI-MSメタボロミクスによるブルーベリー葉・茎の機能性評価		2022年・3月	日本農芸化学会2022年度大会
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
日本薬学会	第142年会ポスター審査員		
日本薬学会九州支部	2019年度学術奨励賞		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生化学講座	職名 准教授	氏名 吉田 裕樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 生物学・基礎生化学・生化学Ⅱ・細菌学・遺伝子工学 総合学習Ⅰ・総合学習Ⅱ 生化学実習 オンライン授業への取り組み		2017年4月～ 現在 2017年4月～ 現在 2017年4月～ 現在 2017年4月～ 現在	生化学を含む生命科学の知識と医療や薬剤師業務との繋がりを紹介しながら授業を行うことで、学生が専門科目を修得することの重要性や必要性を認識できるように工夫している。また、低学年時から国家試験の過去問や関連問題を解かせ、反復学習による知識の定着を目指している。これらの教育内容は、学期末の学生評価アンケートにおいて高い評価を得ている。 生化学分野の理解を深めるために、授業ノートの取り方や要点などを学生同士で議論させ（SGD）、その内容を発表してもらい、教員がフィードバックを行っている。また、学生自身に練習問題を作問してもらい、その問題の意図や考え方を発表させている。これらの工夫により、学生は、受動的な学習から、能動的な学びや自身の得意・不得意分野の気づきを得られている。 生化学・遺伝子工学・細菌学・ウイルス学・免疫学などの実習手技の指導を行っている。本実習では、座学で習った知識と実習内容を結びつきを強調することや、論理的思考能力を養うために実習実験結果を基にしたプレゼン発表会を実施している。 コロナ禍の影響により、従来、黒板に板書しながら授業を進めていたが、オンライン授業用に補助教材やスライド資料を作成し直し対応した。また、オンライン教材「SATT」を用いて、成績不良者に演習問題を出题することで、学習習慣の維持や知識の定着を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会		2017年4月～ 現在	九州保健福祉大学FD研修会に毎回参加し、授業改善などについて議論した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
(論文) Naringenin interferes with the anti-diabetic actions of pioglitazone via pharmacodynamic interactions	共著	2017年4月	JOURNAL OF NATURAL MEDICINES 71 (2) 442-448
(論文) Antiviral activity of hypothiocyanite produced by lactoperoxidase against influenza A and B viruses and mode of its antiviral action.	共著	2018年12月	Acta Virol. 62(4) 401-408
(論文) Naringenin suppresses neutrophil infiltration into adipose tissue in high-fat diet-induced obese mice.	共著	2020年1月	Journal of natural medicines 74(1) 229-237
(論文) Glucosyl Hesperidin Has an Anti-diabetic Effect in High-Fat Diet-Induced Obese Mice	共著	2021年3月	Biological and Pharmaceutical Bulletin 44(3) 422-430
(総説) Preventive and Ameliorating Effects of Food Factors on Obesity-related Diseases by Regulating Inflammation	単著	2021年10月	YAKUGAKU ZASSHI 141(10) 1161-1171
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 食物アレルギーに対するバイカレインを含む漢方薬の影響		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年11月	令和3年度 宮崎県高等学校教育研究会理科部会生物部会及び県北地区生物部会研修会（運営補助・講師）「酵素活性に及ぼすpHと温度の影響」		
2018年12月	平成30年度 宮崎県高等学校教育研究会理科部会生物部会及び県北地区生物部会研修会（運営補助・講師）「身近な最近のグラム染色」		
2017年12月	平成29年度 宮崎県高等学校教育研究会理科部会生物部会及び県北地区生物部会研修会（運営補助・講師）「プラスミドDNAの精製と同定」		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
 2 各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
 3 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 4 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 5 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 6 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
 ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第一講座	職名 准教授	氏名 園田純一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (学科基礎科目) 総合学習Ⅲ (専門教育科目) コミュニケーション演習、一般用医薬品学演習		2017年4月～現在	教科書的な基本事項を踏まえた上で、臨床現場に必要な「問題発見・解決能力」を養うため症例に基づいた授業・演習を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 (学科基礎科目) 総合学習Ⅲ (専門教育科目) コミュニケーション演習、一般用医薬品学演習		2017年4月～現在	臨床現場で遭遇する多様な患者を想定し、約30の症例を作成し、症例検討あるいは模擬患者に演じて頂き、実地に即した演習に供している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第29回 日本医療薬学会年会 (シンポジウム『医療薬学研究に取り組むための基礎と実践』)		2019年11月	シンポジストとして「臨床研究の必要性 -薬学教育と臨床現場との橋渡し-」というテーマで講演
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) The detection of influenza virus at the community pharmacy to improve the management of local residents with influenza or influenza-like disease.	共著	2017年8月	J Pharm Health Care Sci . doi: 10.1186/s40780-017-0091-
(論文) Drug-drug interactions among drugs prescribed for nontuberculous mycobacterial infection and epilepsy: A case report.	共著	2019年2月	J Clin Pharm Ther. Vol. 44 No. 1
(論文) Impact of green tea intake on the pharmacokinetics of celiprolol in healthy subjects	共著	2021年3月	Int J Clin Pharmacol Ther, vol. 59
(論文) 医薬品の適正使用に関しての情報提供ツール「4コマ漫画」の制作	共著	2021年9月	九州薬学会雑誌. Vol 75.
(論文) 薬学生を対象とする携帯型超音波診断装置を使用した膀胱内尿量測定の前備的試験とその意識調査	共著	印刷中	九州保健福祉大学紀要
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 薬物トランスポーター-OATPsを介した薬物相互作用の解明		2021年2月	九州保健福祉大学令和3年度研究経費助成
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年11月～2020年10月	延岡市環境審議会委員		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬理学第一講座	職名 准教授	氏名 常住 淳
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年4月	機能形態学I 及び細胞生物学の講義を担当している。毎授業、要点をまとめた講義資料を配信し学生達の理解の向上に努めている。また授業にグループディスカッションを多く取り入れて、自律学習を促している。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			毎年FD研修会へ参加し、新しい教育手法を学び講義の改善を試みている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Effects of M-1, a Major Metabolite of Sarpogrelate, on 5-HT-Induced Constriction of Isolated Human Internal Thoracic Artery.	共著	2020年12月	Biol Pharm Bull.
(論文) Fibulin-7, a heparin binding matricellular protein, promotes renal tubular calcification in mice	共著	2018年5月	Matrix Biol.
(論文) Dysregulation of fibulin-5 and matrix metalloproteases in epithelial ovarian cancer	共著	2018年4月	Oncotarget.
(論文) Nephronectin Regulates Mesangial Cell Adhesion and Behavior in Glomeruli	共著	2018年2月	J Am Soc Nephrol.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
冠動脈バイパス手術(CABG)における内胸動脈バイパスグラフトの血管れん縮を予防するババペリンの至適濃度の検討		2021年3月	日本薬学会第141年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	日本薬理学会会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第二講座	職名 准教授	氏名 興梠 靖幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 医薬情報学演習（3年生） 実務実習事前学習Ⅱb（4年生）		2021年10月～ 2021年11月11日	医薬情報学演習では、学生にとって習得が難しい臨床研究結果の評価等に関し、自作の教科書を用いて講義を行った。学生からは、分かりやすかったとの評価を得た。実務実習事前学習Ⅱbでは、がん疼痛緩和に関し、模擬症例を対象に薬剤師業務を疑似体験できるような内容とし、薬物動態等も含めて、総合的な実践力が養われるよう工夫を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 図解 医薬品情報学 改訂5版（南山堂）		2022年2月	左記の書籍の演習問題部分を分担執筆した。2022年度中に発行される予定である。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし。
4 その他教育活動上特記すべき事項 卒業研究（5年生）		2022年2月～	「臨床ファーマコメトリクスの均てん化、活用を目的としたアプリケーションの開発」をテーマとし、薬力学・薬物動態学の理解、基礎的なプログラミング技術の習得、文章執筆能力の習得を目標とした卒業研究の指導を行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Establishment of a new initial dose plan for vancomycin using the generalized linear mixed	共著	2017年4月	Theor Biol Med Model. 2017 Apr 8;14(1):8.
（論文）全身観察や質問からフィジカルアセスメントを行う際に参考となる薬剤師のための検索サイトの制作	共著	2020年3月	九州保健福祉大学研究紀要(21), 53-57, 2020-03
（論文）医薬品の適正使用に関するの情報提供ツール「4コマ漫画」の制作	共著	2021年7月	九州薬学会雑誌, 75 (2021) 23-27.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
眼房水中アルブミンに結合するジクロフェナク点眼薬の効果的な投与方法（第2報）		2021年9月	第54回日本薬剤師会学術大会
薬学生を対象とするポケットエコーを使用した膀胱内尿量測定の予備的試験とその意識調査		2021年9月	第54回日本薬剤師会学術大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年度～2020年度	無菌調剤研修会 講師（宮崎県薬剤師会）		
2015年度～2020年度	無菌調剤研修会 講師（日向市・東臼杵郡薬剤師会）		
2021年4月	新型コロナワクチン希釈調製研修会 講師（日向市・東臼杵郡薬剤師会）		
2021年11月	薬剤師の仕事, Out of KidZania in のべおか		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生薬学講座	職名	氏名 渥美聡孝
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (専任科目) 薬用植物学、生薬学、和漢薬学、東洋医学、漢方治療学、漢方治療学演習		2017年4月～	アクティブラーニングを積極的に実施するため、症例問題などを低学年の間から積極的に取り入れ、症例に基づいたSGDやPBLを行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 CBT対策参考書 [改訂第7版] コアカリ重点ポイント集 Vol.2医療薬学		2020年	CBT対策の参考書として、4年生修了時に知っておくべき漢方薬関連の事項について担当し、執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会		2017年～	九州保健福祉大学FD研修会に参加し、自らの講義の改善のため、教育手法を聴講している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 宮崎県におけるシソの大規模栽培法および生薬・機能性食品資源の調査	共著	2021年12月	薬用植物研究 vol.43 No.2
(論文) Quality evaluation of Pinellia tuber by LC-TOF/MS targeted to ephedrine.	共著	2021年6月	Journal of Natural Medicines vol.74 No.3
(論文) Physical and chemical characteristics of soils in Ephedra gerardiana and E. pachyclada habitats of Kali Gandaki Valley in Central Nepal.	共著	2020年9月	Journal of Natural Medicines vol.74 No.4
(論文) Cultivation of Lithospermum erythrorhizon in a semi-mountainous area of Kyushu Island(2) Cultivation of Lithospermum erythrorhizon and quality of its root in Japan at two different farm sites	共著	2019年12月	The Japanese journal of medicinal resources vol.41 No.2
(論文) Effects of crushed Schisandra Fruit on the content of lignans in Kampo decoction.	共著	2019年3月	Journal of Natural Medicines vol.73 No.2
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) トウキとミシマサイコの種子発芽に及ぼす温度と光の影響		2021年9月	日本生薬学会
(演題名) 絶滅危惧種を含むトリカブト属5種における成育およびアルカロイド含量の比較		2021年6月	日本植物園協会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～現在	公益財団法人 東京生薬協会(薬用植物国内栽培委員会)		
2017年4月～現在	一般社団法人 日本生薬学会関西支部		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 臨床薬学第三	講師	日高 宗明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬物動態学Ⅱ		2021年4月～	公式や用語の意味を理解しなければ正答が導き出せない問題を作成し、各自の勉強方法について考えさせる機会を作った。また、毎週講義の数日前までに演習問題をネット経由で配信し、学生が勉強に取り組むよう促した。講義アンケートの結果では、予習に費やした時間の平均が例年よりも高くなっていた。
2 作成した教科書、教材、参考書 臨床製剤学 改訂第5版		2022年3月	分担執筆：第四章 臨床製剤
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 宮崎県立延岡高校2年課題研究ポスターセッション 審査員および協力者		2017年12月～ (毎年)	高校生の研究成果に関するポスター発表の審査を行うと共に助言を行っている。研究テーマによっては、実験の協力を行うことがある。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Possible roles of intestinal P-glycoprotein and cytochrome P450 3A on the limited oral absorption of irinotecan.	共著	2021年3月	Journal of Pharmacy and Pharmacology, 73 (2020) 178-184.
(論文) Effects of M-1, a major metabolite of sarpogrelate, on 5-HT-induced constriction of isolated human internal thoracic artery.	共著	2020年12月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 43: 1979-1982.
(論文) Caffeine has a synergistic anticancer effect with cisplatin via inhibiting Fanconi anemia group D2 protein monoubiquitination in hepatocellular carcinoma cells.	共著	2017年11月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, 40: 2005-2009.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
該当無し			
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年4月～現在	敬愛会治験審査委員会委員		

[注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。

各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。

4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬理学第二講座	職名 講師	氏名 長野貴之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年4月～現在	講義内容をできる限り図示化し、学生の内容理解向上に努めた。またオフィスアワーなども活用して、個別対応を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2017年4月～現在	自作の資料を作成し、その資料に沿って講義を行った。また講義の最後に演習教材を提示し、内容理解度を確認させた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年4月～現在	FD研修会において、単位認定試験における作問方法、遠隔講義の実施方法などについて学び、教育方法の向上に努めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Prostaglandin E2 increases the expression of cyclooxygenase-2 in cultured rat microglia.	共著	2021年12月	J. Neuroimmunol., 361, 577724
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2020年4月～現在	聖心ウルスラ学園高等学校 看護専攻科 非常勤講師		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 薬化学講座	職名 講師	氏名 中村賢一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2021年～	毎回の授業の冒頭に、前回の講義範囲の小テストを行い、解説を実施した。授業アンケートにおいて、本講義のよかった点として小テストをあげている学生が複数名いた。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2021年～	九州保健福祉大学FD研修会へ参加し、教育能力の向上に努めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Deglycosylation of the isoflavone C-glucoside puerarin by a combination of two recombinant bacterial enzymes and 3-oxo-glucose.	共著	2020年7月	Appl. Environ. Microbiol., 86, e00607-20, 2020.
(論文) Expression and characterization of the human intestinal bacterial enzyme which cleaves the C-glycosidic bond in 3"-oxo-puerarin.	共著	2019年3月	Biol. Pharm. Bull. 42, 417-423, 2019.
(論文) C-配糖体の最新の話～C-配糖体を作る酵素、分解する酵素を中心に～	単著	2018年	鈴鹿医療科学大学紀要, 25, 29-38, 2018.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 薬用のつる性木本植物カギズラの25系統の成長、収量及びアルカロイド含量		2022年3月	第133回 日本森林学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2007年～現在	日本生薬学会 会員		
2008年～現在	日本薬学会 会員		
2013年～現在	和漢医薬学会 会員		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 生化学講座	職名 講師	氏名 杉田千泰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2017年4月～現在	現在は、1年生の化学I、2年生の生化学I、総合学習2、基礎生化学実習、3年生の生化学実習を担当している。授業後には小テストを行い、学生の理解状況を把握している。また、理解・復習しやすいような資料作りを心掛けている。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年4月～現在	九州保健福祉大学のFD研修会に毎回参加し、教員間で教育方法についての討議を行うことで、授業の改善を図っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Brazilian propolis (AF-08) inhibits collagen-induced platelet aggregation without affecting blood coagulation.	共著	2021年9月	Journal of Natural Medicines vol. 75 No. 4 975-984.
(論文) Higher lactate and purine metabolite levels in erythrocyte-rich fresh venous thrombus: Potential markers for early deep vein thrombosis.	共著	2019年5月	Thrombosis Research vol. 177 136-144.
(論文) Antiviral activity of hypothiocyanite produced by lactoperoxidase against influenza A and B viruses and mode of its antiviral action.	共著	2018年11月	Acta Virologica vol. 62 No. 4 401-408.
(論文) Effects of orally administered lactoferrin and lactoperoxidase on symptoms of the common cold.	共著	2018年9月	International Journal of Health Sciences (Qassim) vol. 12 No. 5 44-50.
(論文) Altered glucose metabolism and hypoxic response in alloxan-induced diabetic atherosclerosis in rabbits.	共著	2017年4月	PLoS One vol. 12 No. 4 e0175976.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ブラジル産プロポリス(AF-08)と成分フラボノイドが血小板凝集および血液凝固に与える影響		2021年5月	第43回日本血栓止血学会学術集会
(演題名) シャクヤクの薬理活性予測システム実現を目指したNMRメタボロミクスの構築		2022年3月	日本薬学会第142年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年8月～現在	日本血栓止血学会会員		
2013年9月～現在	日本ウイルス学会会員		
2013年10月～現在	日本薬学会会員		
2017年12月	平成29年度 宮崎県高等学校教育研究会理科部会生物部会・東北地区生物部会 プラスミドDNAの精製と同定 講師		
2018年12月	平成30年度 宮崎県高等学校教育研究会理科部会生物部会・東北地区生物部会 Gram染色法を用いた菌の観察 講師		
2019年12月	のべおか市民大学院・公開講座 血栓症ってどんな病気?～血液ドロドロを防ぐためには～ 講師		
2021年11月	令和3年度 宮崎県北理科部会・生物部会 酵素活性に及ぼすpHと温度の影響 講師		

- [注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
 ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 九州保健福祉大学	講座名 創薬情報科学研究室	職名 講師	氏名 内田太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・分析化学III ・プレゼンテーション概論 ・情報処理入門 ・薬学数学演習 ・授業のオンライン化への対応		2019年4月～現在 2020年4月～現在 2021年4月～現在 2021年4月～現在 2020年4月～現在	視覚的に捉えてイメージ理解を助けるために、図表を用いたスライド資料ならびに配布資料を作成し、講義をおこなっている。また、可能な限り実物に触れてもらい、機器の原理および操作の理解に繋がる様にしている。 受講者全員が受講者の前でプレゼンテーション用ソフトを用いてプレゼンテーションを行うことで、自らの考えを他者にわかる様にまとめ・簡潔に話す訓練をおこなっている。 情報処理関連科目は学生の知識・技能がまちまちである。そこで、頻繁にSGDを行ったり、また、教員が声かけや机間巡視を頻繁に行うなど、学生が質問をしやすい環境づくりにつとめ、知識・技能の向上につとめた。 複数で担当する科目であるため、担当教員と互いに連携をとりながら講義および演習内容の確認密に行い、学生が授業に取り組みやすい環境づくりにつとめている。 対面授業では、スライドと黒板を併用していたが、オンラインではそれが叶わないため、スライドにペンタプレットを組み合わせることで、授業の質を損なわないようにした。さらに、オンライン用クリッカー等を用い、オンラインでも授業に集中するように仕向けた。クリッカーは学生に評判が良かったため、対面授業でも用いることにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2019年9月～現在 2020年5月 2020年4月	分析化学IIIの講義用に、視覚的に捉えてイメージ理解を助けるための図表を用いた配布資料を作成し、適宜更新を行なっている。 本学の遠隔講義で用いるオンラインツールのマニュアルを（全学版、薬学科版、各OS用）作成した。 遠隔授業用ログインシステムを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2020年5月	学科教員および全学生に対し、遠隔講義で用いるオンラインツールの使用法の説明を行った。さらに、発生するであろう問題に対応するため、遠隔授業開始後2週間は遠隔授業用講義室付近に待機し、対応に当たった。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2017年11月 2019年4月～現在 2020年4月～現在 2021年9月	第31回日本吸着学会研究発表会において、学生がポスター賞を受賞した 本学FDへ欠かさず参加し、教育に活用している 学内CBTシステム委員を担当 授業評価優秀者として表彰された
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Exploration of DPP-IV inhibitors with a novel scaffold by multistep in silico screening	共著	2018年1月	Journal of Molecular Graphics and Modelling 79 254-263
(論文) Is Physisorption Useful for Fine Pore Structure Control? Control of Pore Structure and Properties of SBA-15 by Paraffin Physisorption	共著	2018年1月	Chemistry Letters 47(1) 27-30
(論文) First-principles molecular dynamics simulation for electrochemical hydrogen production by 4,4'-bipyridine molecular catalyst on silver electrode	共著	2017年9月	Journal of Electroanalytical Chemistry 800 13-18
(論文) 4, 4'-Bipyridine as a molecular catalyst for electrochemical hydrogen production	共著	2017年9月	Electrochimica Acta 248 585-592
(論文) Effects of electrode potential on the adsorption behavior of TBPS on an Au surface	共著	2017年5月	Electrochimica Acta 235 242-250
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 電極表面に吸着した有機分子による電気化学的触媒還元反応の解析		2021年9月	宮崎大学 産学・地域連携センター 第28回技術・研究発表交流会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年8月	信州自然誌科学館2017 実験講師		
2019年9月	九州保健福祉大学 公開講座 講師		

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
 ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
 ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率(%)
1年	63	60	95.24
2年	68	65	95.59
3年	97	87	89.69
4年	68	67	98.53
5年	72	70	97.22
6年	168	155	92.26

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった学生数	抗体価が不十分なためワクチン接種をした学生数 ¹⁾
風疹	35	37
麻疹	18	54
水痘	65	7
ムンプス	51	21
B型肝炎	6	66

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数(確認できた人数)を記入してください。確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 ¹⁾		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・演習室 ²⁾	大講義室	300	2	600	7号棟講義室33, 34
	中講義室	200	4	800	5号棟講義室23, 27、7号棟講義室31, 32
	コンピューター演習室	48~54	2	102	CBTで利用
実習室	化学系実習室	100	3	300	7号棟第2実習室A、第3実習室A, B
	生物系実習室	100	3	300	7号棟第1実習室A, B、第2実習室B
	医療系実習室	100	3	300	4号棟ベッドサイド実習室、模擬病院薬局、模擬保険薬局
自習室等 ³⁾	自習スペース	30	8	240	4号棟1~6階エレベーターホール、7号棟1~2階エレベーターホール
薬用植物園	※以下の概要を任意の様式で記載してください。 ① 設置場所（薬学部キャンパス内か別キャンパスか）：キャンパス内に設置 ② 施設の構成と規模：3,531㎡ ③ 栽培している植物種の数：285種 ④ その他の特記事項：初年次から授業で薬用植物園実習を実施するなど活用している。				

- [注] 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
- 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考にして備考欄に記入してください。コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください（教卓にあるものなどを除く）。
- 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

施設名 ^{1), 2)}	面積 ³⁾	収容人員 ⁴⁾	室数 ⁵⁾	備 考
講座	123m ²	人	12	教授室、准教授・講師室、ゼミスペース、実験室
研究室	23m ²	人	9	個人研究室（個室）
演習室	137m ²	人	4	学生に開放している演習室
	m ²	人		
	m ²	人		

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、（基礎資料11-1）と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が（隣接する2～3講座で共用で）占有する施設があれば、記載してください。
実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 5) 薬学科の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。（ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。）

表2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 ^{1), 2)}	室数	施設の内容
機器室	5	NMR室、機械室、中央機器室、機器分析室 1, 2
細胞培養室	2	細胞培養室 1, 2
動物飼育施設	7	飼育室 1～4、実験室、洗浄室
その他の施設	1	ロッカー室 2

- 1) 実験動物施設、NMR室など、例示を参考に、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。（面積などは不要です。）
- 2) 例示以外の実験施設（例えば、培養室など）があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B） ¹⁾	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 ²⁾	備 考 ³⁾
附属図書館	361	1,923	18.8			15	社会福祉学部(353) 保健科学部(290) 薬学部(904) 生命医科学部(280) 臨床心理学部(80) 医療薬学研究科(16)
計	361	1,923	18.8			15	

1) 「学生収容定員数（B）」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員（B）」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ（キャンパスが異なるなど）、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) ²⁾	電子ジャー ナルのタイ トル数 ³⁾	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) ¹⁾	内国書	外国書			2020年度	2019年度	2018年度	
附属図書館	75,760	68,184	226	180	510	9,747	539	916	1,130	
計	75,760	68,184	226	180	510	9,747	539	916	1,130	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。